

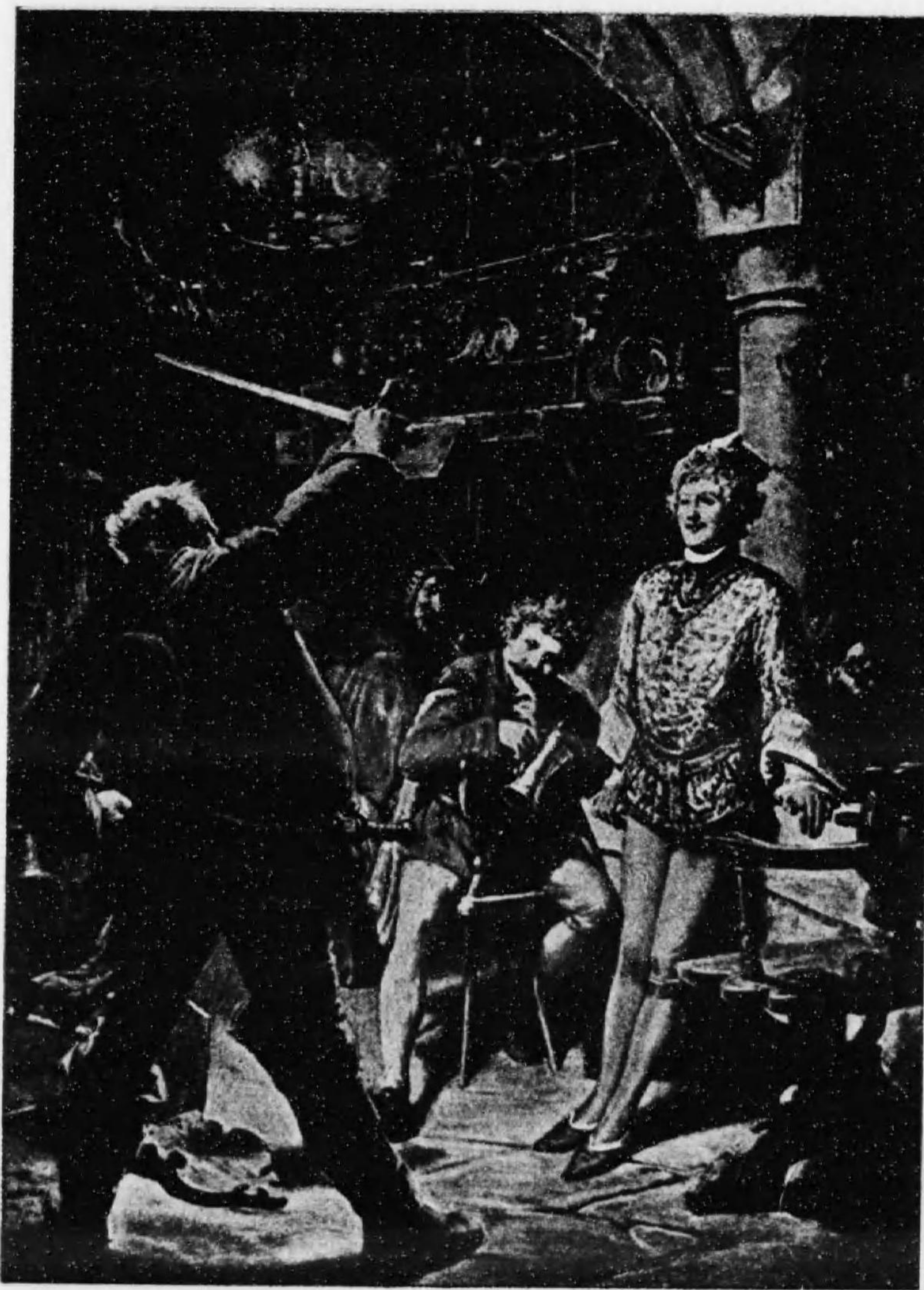
522  
15  
176



始







*From the painting by Ed. G. G. G.*

*Photo: Berlin Photographic Co., London.*

Falstaff in Eastcheap ("Henry IV."—Part Second).

*Falstaff. "Give me my rapier, boy."*

Act II, Sc. IV.





第三部

四世

坪内逍遙

大譯  
13. 3. 29  
購求





## 縮言

ヘンリー四世第二部の最先の刊行は一六〇〇年の四折本なり。其表題は左の如し。

ヘンリー四世の第二部、王死してヘンリー五世戴冠するまで、附けたり、  
士<sup>サー</sup>爵ジョン・フォールスタッフ並びに威張屋ピストルの滑稽。チャムバレイン卿閣下  
の御家來衆が屢々公演せられたる其儘のもの。ウィリヤム・シェークスピア  
作。ロンドン。アンドリュウ・ワイズ並びにウィリヤム・スプリーの爲にギー・エス印刷。  
一六〇〇年。

発行者は之を同年八月二十三日に、例の文房具商の目録中にマッチ・アドー・アバウト・ナッシング（「空騒ぎ」）と共に登記せ



り。按ふに、其書下されしは之よりも數年以前なるべし。彼の「第一部」の初めて公演せられしは、(前冊の緒言に誌しおけるが如く)、一五九七年の事にして、其新著目録に記入せられしは一五九八年の事なるより推すれば、「第二部」の脱稿は右の公演よりは後、右の記入よりは前なりしが如し。然るは、オールドカッスルの役名の、一六〇〇年の刊行に係る「第二部」の四折本の或一節中に、尙其影を留めをれるによつて推測せらる。前冊の緒言中に辯じおける如く、オールドカッスルはフォールスタッフの前名なるが、中頃、或方面よりの抗議ありて、撤回せられ、急にフォールスタッフと

改められしものなり。故に一五九八年の書目中に記入せられし「第一部」は、初公演の際まではオールドカッスルの役として演ぜられをりし部分を悉くフォールスタッフと書き改めたり。然るに一六〇〇年の「第二部」の四折本に、尙フォールとFolds. あるべき處にオールド *Old* の頭字の残れるは、明かに改刪し落したるものなるべく、以て其原稿は、すべてオールドカッスルと書きたりしことを揣摩し得べし。随つて又「第一部」と「第二部」とは、ほゞ其時を同じうして著筆せられしものたるを推察するを得。

「第二部」は「第一部」ほどには歓迎せられざりしにや、其刊



本も、單行の分は、一六〇〇年の前記四折本ありしのみ  
其他には、作者の死後に、例の一六二三年の二折本出で  
し迄は、何等聞く所なく、又其公演に關する記録の如き  
も、登録後約一百年を経て初めて見えたり。但しペン・ジョ  
ンソンの作にて、一五九九年に初めて演せられし“Every Man  
out of his Humour”中に、判事サイレンスの噂をさせたる或白<sup>part</sup>あ  
るのみならず、例のミヤースの“Palladis Tamia”（一五九八年版）  
の中にも「ヘンリー四世」の事を誌して、第一部、第二部を並べ  
挙げたるによりて考ふれば、二部ながら上演せられし  
には相違なし。

「第一部」の包含したる正史的期間は、一四〇二年九月十  
四日より一四〇三年七月二十一日のシュリュースペリー原の決  
戦までの、約十箇月間に過ぎざるが、「第二部」のそれは、  
一四〇三年の右の決戦に於ける叛軍の敗績及び熱拍車  
の戦死より一四一二、三年のヘンリー四世の死及びヘンリー五  
世の戴冠までの、約九箇年に相當す。但し「第二部」の「第一  
部」に比して、やゝ散漫なるが如き觀あるは、必しも之が  
爲にはあらざるべく、むしろかゝる長年月間の事蹟を  
さながら數月間の出來事にてもあるらしく、巧みに取



纏めたる作の手際を稱すべし。いふまでもなく、此二部は相聯絡したる一作として見るべきものなれば、之を二部に分ちしは、一日三時間を限度となし、當時の興行約束に従ひしに外ならず。

史實に忠なる點よりいへば、「第二部」は「第一部」以上なり。フォールスタッフ其他の無頼漢、酒亭の女主、私娼、地方判事らに關する喜劇的諸要素を除外すれば、他は殆ど悉くホリシエッドの「英國史」の史實通りに、人名をも、地名をも、事情をも踏襲して、筋を立てたるものと評して不可なし。勿

論、ホリシエッドに在りては、纔かに抽象的に叙し去られたるか、もしくは、やゝ具體的に記されたるも、たかゞ簡疎なる史筆たるに過ぎざるかの事態、狀況、言語等を、精緻に且つ畫的に、關係人物の言動によりて寫しいだしたるを例の如し。殊に、王子ジョンと伯ウエストモアランドとが、謀つてヨオクの大監督其他の叛軍の頭目を陥るゝ一段の如きは、既に相應に具體的に傳へられたる史實の骨に、作者の想像によりて、更に豊かなる血肉を附し、生命を與へたるものと見るべし。或は、王ヘンリーが其晩年に於ける甚しき不眠症の苦悶、其王世子に對する不安、其臨終



の對問等の如きも、すべて大體は史と傳説とによりて  
普く世に知られたりし所ならんが、これらの事蹟が、史  
傳其者以上の眞實味と精緻と深刻とを以て、長く讀書  
子の心鏡に映寫せらるゝことゝなりしは此「第二部」在り  
て後の事なるべし。將軍マーボローが「予は聖書と沙翁との  
他を讀まざれど、それにて事足れり。前者によりて身を  
修め、後者によりて國史を知る」と人に語りぬと言ひ傳  
へたるも故なきことにあらず。

されども劇の脚本としての價值よりいへば、「第二部」は  
「第一部」に對して若干の遜色あり。彼の熱拍車の如き特

に舞臺上に於て多數者に喜ばるべき性癖を具へたる豪  
快なる悲劇人物を缺けるは其弱點の一にして、筋の運  
びの緩く、總體に「第一部」に比して嚴肅部面に於ける緊  
張味の稀薄なるは其弱點の二なるべし。然れどもフォー  
スタッフの性格の如きは、依然として「第一部」のまゝに持續  
せられ、而も其種々の新しき境遇と關係とに於て、前作  
にては未だ見られざりし面白味を發揮せり。高等法院  
長(ガスコイン)との應答の如き、酒亭猪頭軒の女ばらとのそ  
れの如きは、後のフィールディング、ディケンズ乃至我式亭三馬な  
どを聯想せしむべき自然の滑稽にして、いづれも當時



の寫生的風俗畫と見るべきものなり。三百餘年を経たる今の異邦人の心を以て之に接するも、尙且つ其現實性の躍如たるを覺ゆ。其他、作者の故郷とは直ちに隣接したるグロースターシャー州に於ける新兵募集係りとしてのフォールスタッフの隊長振の如き、該地の田舎判事としてのシャロウ、サイレンスらのをかしき言動の如き、彼等及び新募兵とフォールスタッフとの應接鹽梅の如き、「第一部」に至つて、俄に注意に値ひする一の喜劇的人物となれる空威張屋のピストルの笑ふべき誇張的云爲の如き、正史に依據して成れる史劇中に挿入されたるものとしては、當時の作中

には勿論、後世のそれらにだに、未だ曾て類例を發見する能はざる底の自由自在の寫生畫なり。就中ピストルの大言壯語及び其不自然なる行動は、一面、暗に當時の擬古派作家らの常習たりし誇張的悲劇科白を諷刺したるものと見做すを得る點に特殊の面白味あり。蓋し其頃既に廢れんとしたりし擬古派の諸作家に對しては、沙翁の中年以後の諸作は、明かに寫實派もしくは自然派を以て目せらるべきものなりしならん。

由來、東西文化の相違は、或論者らの、人種性の差を云々



して、一概に推論し去れるが如くに爾しかく根本的なるにはあらずして、むしろ彼此社會進化上の遲速先後に原因するもの多きが如し。例へば、封建時代に於ける王侯、君臣、上下の關係、戰國武士の抱負、情操等の上には東西其揆を一にする所のもの少からざるを見る。試に「ヘンリー四世」前後二部に描出せられたる英王對諸侯伯の關係を以て我寛永、慶安頃の將軍對諸大名のそれに比べ、又當時の勳爵士らの意氣、態度を以て我慶長、元和の武士のそれに擬し、更に又エリザ朝のロンドンの風俗を以て我元祿の江戸のそれに對照せば、そこに多少の著しき類

似あるを發見すべし。然れどもそれと同時に、彼れの各人物は、其自意識の強烈なる點、其思想感情の緻密なる點等に於て、遙かに我過去のそれを凌ぎて、むしろ明治大正の吾々と相共鳴する所多きを感すべし。すなはち知る、現代人の見て東西民族性の根本的差違となすもの、大半は、主として彼れが——(所謂ルネサンスの大革新運動を経たりし結果)——少くも二百餘年がた、我れよりも早く自覺し、随つて吾々が明治以後に閱歷し始めたることを彼れは早く既にエリザ王朝に於て經驗しつゝありしに原因するを。三百餘年前に成れる沙翁の諸作が、



たかゞ八九十年を隔てたる我馬琴、三馬らの諸作よりも不思議の親しみを吾々に覚えしむるは之が爲ならん。而うして是等の親しみと共鳴とは、特に、最も自由に、且つ最も自然に描出せられたる喜劇的部分に多し、就中フォールスタッフの科白などに多し。譬へば、我淨瑠璃の詞句を例として言はゞ、重忠、石堂などの口にする所よりも岩永、薬師寺らの言ふとの方が、今人の心には、幾分か有理と聞かるゝがごとし。然るは、是等の性格を寫すに當りては、作者の筆が時代の因襲的道德批判に拘束せらるゝ所なく、自在に又は無遠慮に、人の性の有りの

まゝを寫し得たればならん。要するに、沙翁の作の長壽なる所以は、主として是等作中の自然味に在り。

前にも記せる如く、此「第二部」は、作者存生中に、少くとも一二度は上演せられしに相違なけれど、其上演の確實なる記録は、作者死後八十餘年を経たる一七〇〇年のそれを始めとす。すなはち名優トマス・ペタートンが「第一部」の復活上演に成功せしを機として、「第二部」をも「ヘンリー四世の後段」と題して改作し、つゞけて演ぜしを紀元とす。此改作人氣に適ひしにや、其後一七二〇年、一七三



一年、一七三二年、一七三三年、一七三四年といふ風に、殆ど連続的に、上演せられし記録あり。十八世紀の末までには十數度に登れるものゝ如し。之を演せし俳優には、前記ベタートンの他に、シッパー、クイン、シオフィラス、ガーリックなどあり。しかしながら其臺帳は毎に必ずベタートンの改作にもとづけりきと云ふ。

十九世紀に入りてはジョン・ケムブル其他の復演あり。女王ギクトリヤが特に此劇を選みて、ウインゾア城内にて演ぜしめしこともあり。そは一八五三年の事なりき。王とシャロウとを持役として名ありしヘルプスは屢々「第二部」を上演

したりしが、一八七六年に同じ役々を勤めし時は既に其老境に入りたる後にて、英國の大劇場にては、其年以後又此作の上演を聞かずと云ふ。

大正八年七月卅日

譯者



登場人名

流言、序詞役。

王ヘンリー四世。

ヘンリー、ウエールスの公爵、四世の第一王子、後にヘンリー五世。

クラレンス公、トマス、第二の王子。

ランカスター公ジョン、第三の王子。



グロースタール公、ハンフリー、第四の王子。

伯ウォーリック。

ガワー。

伯ウエストモーアランド。

ハーコート。

伯サリー。

ブランド。

裁判長ガスコイン、(くはしくは高等法院長)。

裁判長の家來。

伯ノオサンバランド。

ヨオクの大監督アーチビシヨフ、スクローブ。

卿モウブレー。

卿バードルフ。

卿ヘスチングス。

士爵サジョン・コールギル。

トラブース

ノオサンバランドの従者。

モオトン

士爵ジョン・フォールスタッフ。其侍童。

バードルフ。

ピストル。

ポインズ。

ピート。

シャロウ

地方判事。

サイレンス

デーギー、シャロウの家令。



モールデイー、シャドウ、ウォート、フィーブル、ブルカーフ、いづれも新募集兵。

ファンダ

町奉行の下役。

スネーア

ノオサンバランド伯夫人。

パーシー未亡人。

クイックリー、イーストチープの酒亭の女主。

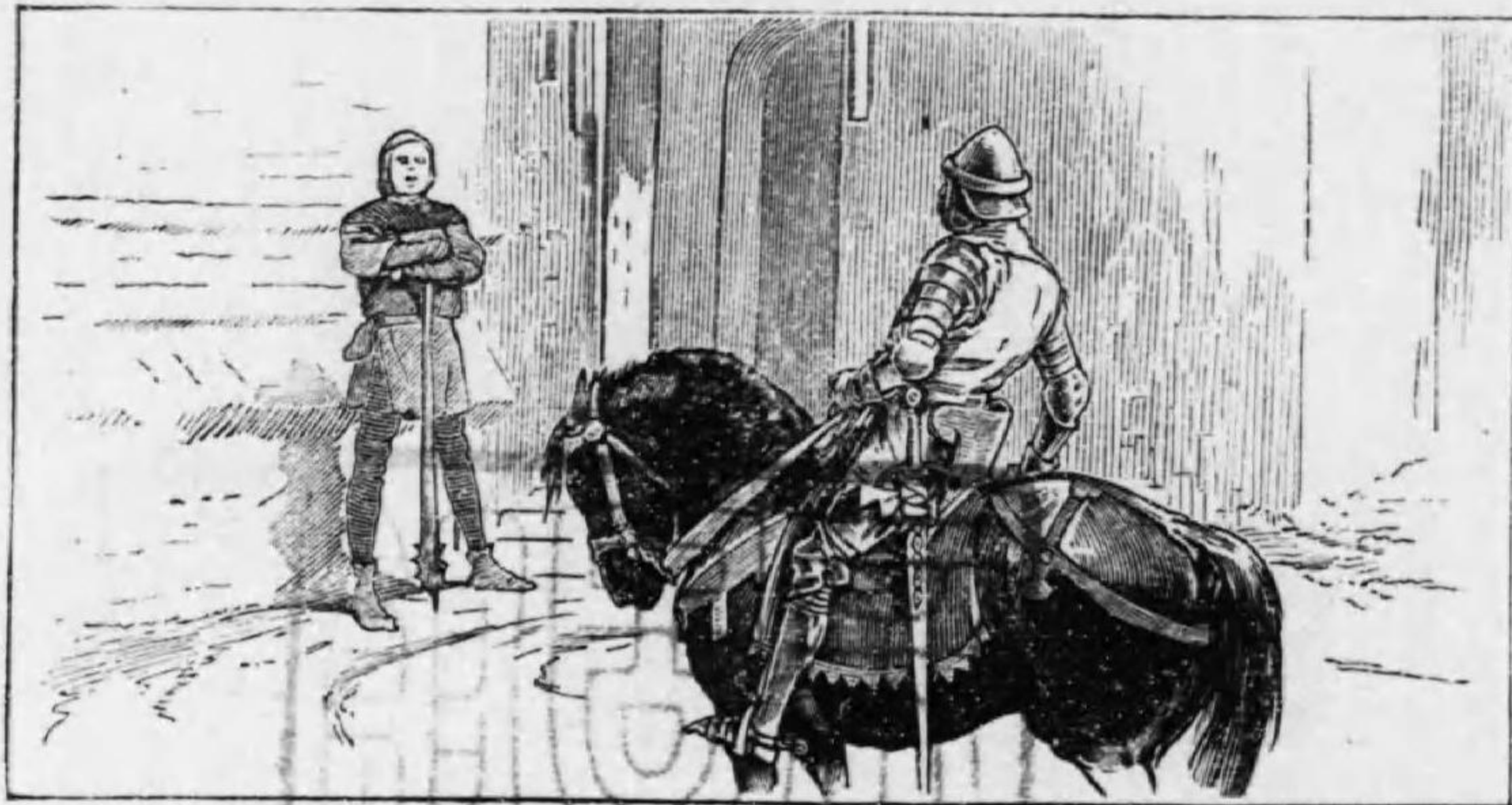
ドール・チャシート、私娼。

貴族、侍者、門衛、給仕人、羅卒、馬丁、其他及び閉場詞を述ぶる舞踊手。

場所。 英國。



序



# ヘンリー四世

(第二部)

序

蘇國々境附近、ノオサンバランド  
伯の居城ウオアヲオス城の前

一面に赤い舌を模様<sup>ルモア</sup>に畫いた服を着てゐる「流言」が出る。



流言

さ、耳をお開け。流言が大きな聲で物を言ふのに、それを聞かないでゐられる筈はないから。豊坂昇る東方から、垂下る西の海まで、風を早馬に乗廻して、此地球上の出来事を知らせるのがおれの役目だ。此舌に絶えず乗ッかる種々な誹謗を、各國の國語で喋り散らして、好い加減な噂を人の耳に詰め込むんだ。俺が天下泰平を傳へてゐると同時に、笑の底に刃を藏す憎怨が、安寧な世の中に手傷を負はせる。「流言」でなくって誰れが、おれでなくって誰れが、おそろしい軍馬を集めさせたり、防禦の手配りをさせたりしようぞ？ 又候ふ新規な大厄難が持上つて、今にも残酷な戦亂が生れさうだと思はせて、其實そんなことは氣も無いのに。「流言」は笛だ、猜疑や推察や臆測の呼吸で、容易に吹立てられる笛だ、無数の頭を有つてゐるあの鈍の化物の吹立てる、あの始終ふはくごたくしてゐる群衆で奴が勝手に吹立てる笛だから。……だが、内輪の足下達に、夙に知れ切つ

てる俺の性質を解説するのは無要なとだつた。一體、おれは何しに爰へ出たのだ？ 俺はあのヘンリー王の勝軍を觀て來たんだ。王は、シユリユースペリーの激戦で、血氣壯んの熱拍車を全軍と共に打敗つて、燃え盛つてた謀叛の火焰を、その謀叛人の血で以て消し止めてしまつた。が、斯う事實話を先へするのは如何したといふのだ？ おれの役目は、ハーリー・マシマス（王世子ヘンリー）は、あの猛烈な熱拍車の劍の下に斃れた、さうして王もまたドーグラスの奮迅の勇に敵しかねて、其神聖な頭を殆ど死んだやうにうなだれたと言ひ觸らすにあるんだ。だから、もう既にシユリユースペリーのあの戦地と熱拍車の老父のノオサンブランドが假病で臥てゐる此古ぼけた破損城との間の部落々々に、流言を撒散らして來た。早飛脚が、頻りに息を切つてやつて來るが、みんな俺から聞いたことを持つて來るんだ。此「流言」が言ひ觸らす耳ざはりの好い、わるい事實其物よりも尙わ



るい知らせばかり持つて来るんだ。  
入る。

\*  
\*  
\*  
\*  
\*  
\*  
\*  
\*  
\*  
\*  
\*  
\*

第一幕

第一場 同處

トマス・バードルフ(男爵)出る。

トマス この門衛はだれだ？ おい〜…………

門衛出て門を開く。

伯は何處においでだ？

門 どなたさまと申し上げませうか？

トマス 男爵バードルフがお目にかゝりたいと申したといつてくれ。

門 殿さまはお庭の方をお散歩なすつていただきます。憚りまでございませう。

すが、あの木戸をお叩き下さいまし、御返辭遊ばしませう。

此うちノオサンパランド、手に撞木杖を携へ、病中の體で出る。

トマス おゝ、あそこへ見えた。

門衛入る。

ノオサ や、これはバードルフ卿、何事が起りましたか？ 毎分時に何か容易なら

んことが出来しさに思はれます。騒がしいことです。たらふく食つ

て肥りかへつた馬が、羈絆を切つてあばれたしたやうな擾亂です、取り抑



へやうもありません。

トマス

伯爵、わたしはシュリースベリーからの確報を持参しました。

ノオサ

どうか善い報告を、神がお許しあらば！

トマス

此上もない善いお報告です。王は殆ど助からんほどの重傷です。それから御子息の好運によつて、王子ハリーは即死です。それからブラントは、二人とも、ドーグラスの手に懸つて戦死しました。第二王子のジョンとウエストモアランドとスタッフォードとは逃げ、ハリー王子のお附の、あの肥満漢の士爵ジョンも御子息の捕虜となりました。おゝ、こんな名譽の大勝利は、こんな風に、豫定通りにうまく行つた戦争は、シーザーの時代以來曾て無いことです！

ノオサ

どこでそれをお聞きなすつた？ 戦場を御覽なすつたのですか？ シュリースベリーからお出でなすつたのですか？

トマス

彼地から参つた立派な身分の者から聞きましたのです。其男が事實の有りのまま、だと言つて話してくれました。

ノオサ

(一方を見て)あそこへ家來トラヴァースが來ました。わたしは彼れを、先の火曜日に、様子を探らせに遣しました。

トラヴァース出る。

トマス

閣下、わたしはあの仁を、來る途で乗越しましたよ。おそらく、わたしの受賣程度以外のお知らせは持つちやア來ますまいよ。

ノオサ

おい、トラヴァース、何か善い知らせがあつたか？

トラヴ

御前、士爵ジョン・アムフレギルに逢ひました處、善い知らせを聞かせてくれられました、さて早く歸れと申されて、好い馬に騎つてござるので、忽ち通り過ぎてしまはれました。と、其後から又一個の紳士が、疲れ馬に激しく拍車を加へくして參られ、手前の傍まで來て、其血みどろの馬を休ま



せてをられまして、手前にチェスターへの途を聞かれました。で、手前がシユリユースベリーの模様を尋ねましたところ、其御仁は、叛軍方は大敗北だ、ハーリー・パーシーの拍車は冷くなッちまつた、と申されました。と申されるや否や、うんと轡をくれて、腑向加減になつて、疲れ馬の波打つ横ッ腹へ左右の拍車を食入る程打附けられたと見ます間に、二言と問る暇もなく、行手を食ッちまふやうにして駈けて行つてしまはれました。

ノオサ

えッ！……もう一度。なに、其男がハーリー・パーシーの拍車は冷くなッちまつたと言つたか？ 熱拍車が冷拍車になつたと言つたか？ え、叛軍方は大敗北だといつたか？

トマス

閣下、まあ〜お聴き下さい。萬一にも御息が勝利を得なさらなかつたといふやうなことがあればです、わたしは細紐一筋に易へて男爵領全部を獻じます。とんだ間違です。

ノオサ

だつて、トラヴースが逢つた紳士が、故なくしてそんな詳しい敗北話をする筈はないぢやありませんか？

トマス

だれが？ 紳士？ 其奴はきッと何ですよ、其乗つてゐた馬を盗んで来た奴か何かで、出鱈目にいつたのですよ。……あ、あそこへ又何か知らせが来ました。

ノオサンブランドの家來モオトン出る。

ノオサ

あの男の眉附は、たしかに悲惨なことの書いてある書の扉のやうに、其内容が豫言してゐる。激しい津浪で明かに荒らされたといふ濱邊なぞがあるな風に見えるものだ。……やい、モオトン、シユリユースベリーから来たのか？

モオト

はい、お殿さま、シユリユースベリーから駈け戻つて参りました。憎い死の神めが此上もない醜惡い假面を被りをりまして、身方のお方々をさんぐ〜



ノオサ

に威してをりました。  
 作はどうした？ 弟は？ 汝は慄えてゐる、頬が眞白になつて。それが舌よりも能く使ひの趣きを語つてゐる。恰ど如是風に、息を切らして、元氣のない、死んだやうな、情けない顔をした奴が、真夜中に、ブライヤムの寢室の帳を褰げて、トロイ城は既う半分火になつたと知らせたんだらう。だが、ブライヤムは、其者が舌を動かさん前に、もう其火に心附いてゐたと同じに、おれも汝が言はんうちに、作の戦死を察してゐるぞ。汝は「若殿はかやうくにお働きなさいました。御令弟様はかやうく。ドーグラスどのは云々」なぞと言つて、おれの聞きたがる耳を先づ彼等の勇戦の話で抑へておいて、とゞの詰り、其おれの耳を全然止めてしまはうとするのだらう、其勇戦の賞讃も何もかも吹飛ばしてしまふ大溜息と一しよに、「御令弟様も、若殿も、どなたもく皆な戦死を」と報告して。

モオト

ドーグラスどのは、又御令弟様も、まだ御存命でございます。けれども若殿さまは……

ノオサ

亡つたのだ。……ま、どうだ、疑ひの口早いことは！ どうぞ聞きたくないものだと念じてゐると、その嫌な事が起つた時分に、それが、他人の目の色を見ればかりで、本能的に解る。だが、モオトン、ま、話せ。苟も伯爵たる此身に、其推測は大間違だ、大嘘だと怒鳴りつけてくれ、おれは其悪口を有りがたく思つて、おれを侮辱した廉で褒美を遣るから。

モオト

中々以て御反對申し上げることは出来ません。御賢察の通りでございませ、御心配が全く適中しました。

ノオサ

けれども、まさかその、パーシーが死んだといふのぢやあるまい。……妙な告白が汝の眼中に見える。汝は頭を振つて、事實を話すのを、怖しいとかわるい事とか思つてゐるらしい。……これ、殺されたのなら然ういへ。死



んだと言つたからって、其舌には罪はない。死んだのを詐るのはわるい事だが、死んだ者を死んだといふのは當り前だ。……だが、凶報を真先に持つて来れば、喜ばれないのは定りだ、其者の言葉は、葬式の鐘の音同様に、亡者を知らせる厭アな聲としてのみ記憶される。

トマス

閣下、わたしは、如何しても、御息が亡られたなぞとは思ひません。

モオト

情けないこととてございますが、あゝ見ませんかつたらと存じますこととお信じ遊ばすやうにいたすより外はございません。手前の此眼が、若殿が王子ハリー・マンマスを對手に、血みどろになつて戦ひ疲れて、息を切らして、やつと受太刀になつてお在なざるのを見ました。王子の疊み掛けた激しい太刀風に、さしも勇猛無双と呼ばれたパーシーどのも、喝破と地上に打倒れて、又とは起上らんお身となられました。つまり、全軍中の最も鈍な士百姓にまでも勇氣の火を吹込んでござつたお方が、戦死なすつたと

知れ渡つたや否や、身方の最も鍛ひ上げた勇敢な胸からさへ、火も熱も消えツちまひました。若殿の鋼鐵のお心が全軍の地金となつてゐたのであるのに、それが亡つたとなつては、他の者共は悉く、重い鉛の劍のやうに、脆く挫折してしまひましたのです。さうして、得て重い物は、一旦機勢を喰ふといふと、全速力で轉げ出しますやうに、若殿の戦死で氣が重くなつてゐた身方は、臆病風に吹立てられたが最後、みんな尻軽になつて、我先にと安全を覘つて、箭が的に向つて飛ぶよりも早く、戰場をば逃出しました。ウーセスターさまが忽ち擒とおなりなされたのは其際でございます。あの残忍猛烈な、王の影武者を三人までも討取られました程の勇士ドーグラスのどのさへも、其傲慢な首をすツこめて、背後を見せる連中の不名譽に榮譽を與へつゝ、落ちられましたか、慌てゝ轉んで、捕虜となられました。結局は、王の勝利となつて、王子ランカスターとウエストモーアランドとを大



將に、御前、閣下をば至急征伐の爲の一軍を差向けられることになりました。これが委細のお知らせでございます。

ノオサ

あゝ其知らせは盡きない歎きの種となるだらう。だが毒にも薬力がある。若し健康でゐたのなら、此凶報の爲に病氣にもなつたであらうが、病中なので、却つて、それが爲に元氣附いた。熱病で弱り果て、其四肢を、脱れかゝつた蝶番なぞのやうに、だらりとさせてゐるやうな奴が、發作の餘り、堪へかねて、看護人の手を振拂つて、躍り上るやうに、持病の疼痛で弱つてゐるおれの節々が、心の苦痛に奮激して、平素に幾倍した強味を覺える。おのれ、女々しい挿木杖め、おのれなんかは（と言ひつゝ杖を抛り出して）そつちへ往つちまへ！ さア此手には鱗形の鋼鐵で拵へた籠手をはめなけりやならん。おのれ、病人帽子め（と酒盃形の病帽子をひなぐりすて）そつちへ往つちまへ！ おのれは勝ち誇つた王侯が奮らうと覘つてゐる此頭を防

ぐにはだらしがなさ過ぎる。さア、鐵の額巻をさせてくれ。さア、どんな怖しい時刻でもやつて來い、どんな怖しい問罪の兵なりと、此ノオサンブランドの憤怒に敵對して見ろ！ 天と地とをぶつつかからせろ！ さア、「自然」に手をゆるめさせて、思ふ存分、大津浪を溢れさせろ！ 一切の秩序をなくしつちまへ！ もう此世界は屑々した格闘なんかを演ぜさせておく舞臺ぢやない！ 出る役者、出る役者に惣領カインの根性ばかり持たせて、どいつにも殘酷な事ばかりさせて、猛惡極まる場を大詰にして、眞昏闇で慘死の幕を閉ぢつちまへ！

トラウ  
あゝ、そんなに御憤激遊ばしますのは、お身分柄よろしうございませぬ。

トマス  
もし、閣下、お怒りの餘り、面目をお忘れなさるやうなことをなさるな。

モオト  
お身分御一統のお命は、閣下の御健康次第で、助かるとも助からんとも定るのでございます。閣下が自暴自棄におなりなされますれば、皆さまが



駄目になつてしまひます。お殿さま、あなたは、豫め、此度の事件の成行を御推測遊ばしていらつしやりましたぢやございませんか「ぢや事を起さう」とおツしやいました前に？ 切ツつ撲ツつの模様で、或は若殿は御落命なさるかも知れんと、豫言してお在遊ばしたぢやございませんか？ あなたは夙に、若殿が危険な崖ツ縁を……渡り果すよりも墜落ちる方が七八分の崖ツ縁を……傳つてお在の事は、夙に御承知でございました。大小の手創をお受けなさりさうなことも、又大膽なお氣質ですから、別けても危険な真直中へ、お乗込みなさりさうだといふことも、あなたは御熟知でございました。けれども閣下は「往け！」とおツしやいました。十分危ぶんでお在なすつてたにも係らず、乗りかゝつた船で、どう遊ばすことも出来なかつたのです。して見れば、こんどの大膽な御一舉のために、さう成るらしいと思しめしたことが然う成つたのでこのことでございませう。何か

トマス

御豫想外のことになりましたか？  
此大敗に關係する限りの吾々は、いづれも、こんどの擧を怖しい冒險の航海だと知つてゐたのです、一命を儲け得るにしても、それは十中の一と思つてゐたのです。けれども冒險したのです。といふのは、望みの獲物が其十中九の危険を壓倒して餘りあつたからです。斯う顛覆された以上は改めて冒險しませう。さ、一同擧つて出陣しませう、身體も財産も根こそげ。

モオト

もう一刻も御猶豫は出来ません。お殿さま、たしかな報道に據りまするに、ヨオクの大監督どのは、既に十分に戦備を整へて、御出陣になつたと申します。あの御仁は、二重の保證を以て、部下の方々をお取締になつてゐます。若殿は、いはゞ、只人間の形骸を、只影とか姿とかを、戰場へ御引率になつたやうなものでした。と申すのは、謀叛といふ悪名が靈魂から肉



體の働きを引分けまして、各自何となく、苦い薬を飲む時のやうに、疾しいながら止むを得ず戦ふといふ風でありましたからです。ですから、武器だけは此方がたに屬してゐましたが、心も靈魂も、謀叛といふ一言のために、凍えて、ちやこまつてしまつてゐましたのです、冬の池の魚のやうに。ところが、大監督が出陣となると、暴舉が宗教になります。これは全く誠實敬虔な心から兵を擧げられるのだらうと想像しますから、心をも身をも獻げて従軍します、且彼のボンフレット城の石壘から摩り取つて來た故王リチャードさまのお血液の爲といふ名分も添はります。すなはち擧兵の理由をば天意に歸して、あのボリングブロックに虐げられて、血を流しつゝ、喘ぎ苦む此國土を擁護するのだと呼號することが出來ます。ですから、大も小も、競つて大監督の旗下には馳集るのです。

(漸く顔を擧げて) それは俺も夙に知つてゐたことだ。けれども、實は、目前

ノオサ

の悲歎のために、すつかり忘れてしまつてゐた。ま、一しよに奥へ來て、どうしたら最も安全に又最完全に復讐が出来るかを皆なと相談して下さい。早飛脚に命じて、書面で至急に身方を集めよう。身方の如是に乏しい例も空前だが、如是に身方の必要な例も空前だ。

入る。

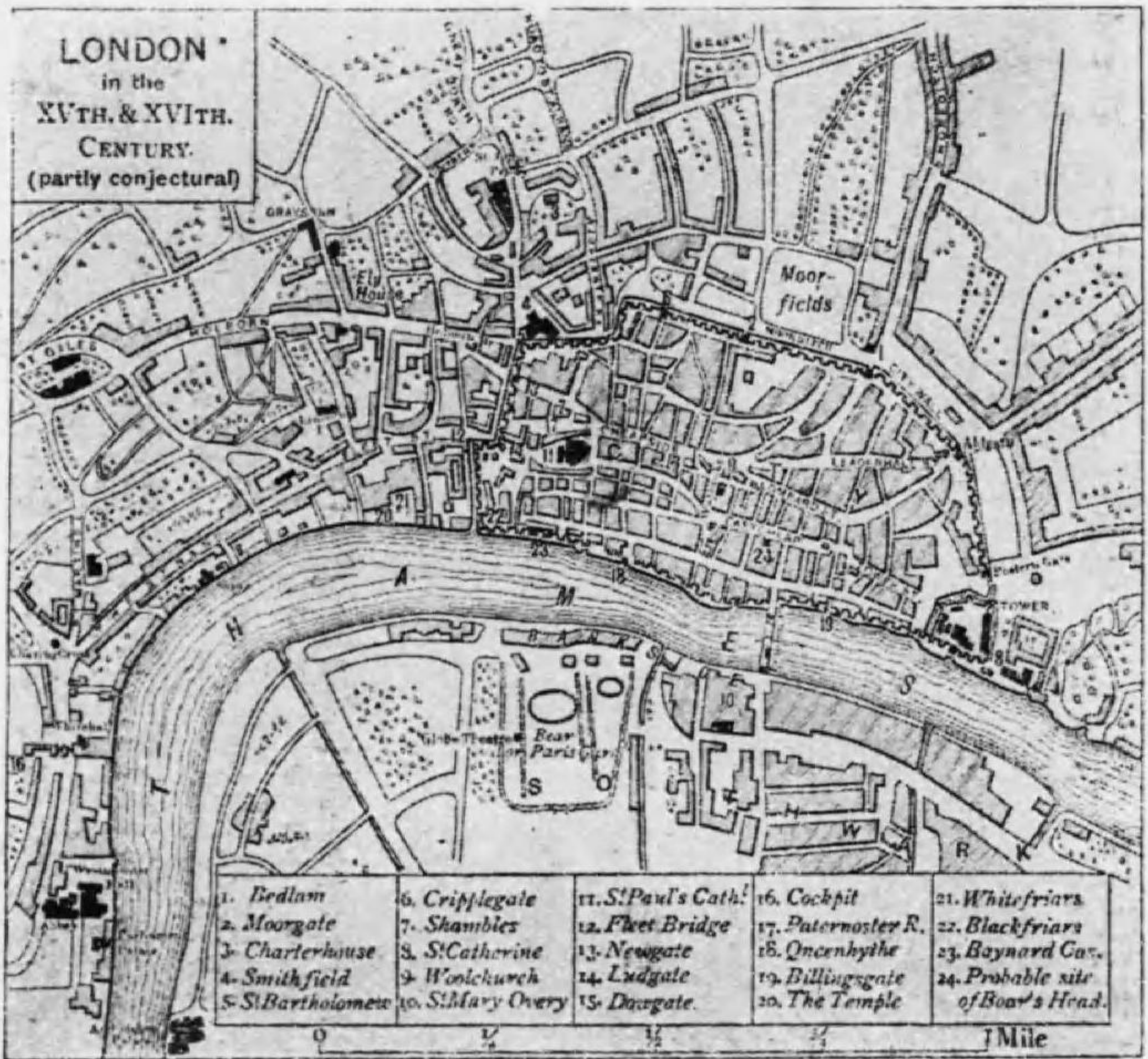
第二場 ロンドン。街頭。

フオールスタフ出る。すぐ後から、猿のやうに小さい侍童が怖しく大きな帶劔と楯とを持つて、後れまいと追掛けるやうにして従いて出る。

フオル

(侍童を見返つて) こら、大男、醫者は何てつた、おれの小便の事を、醫者は?





侍童

へい、あの、小便は立派な健全な小便だ、けれども此持主は、自分で氣が附いてるよりも以上の不可い病氣を持つてるんだて言ひました。

フォル

(憤れて) どのつちこいつも俺を嘲弄するのを手柄だと思つてやがる！ 碌でなしの、土塊頭の人間で奴の智慧ぢやア、おれが工夫してやるか、おれを種に工

夫するかでなけりや、笑ひ事の思附が出来やがらねえいんだ。おれは自分か頓智に長けてゐるばかりでなく、他人にまで頓智を出させるんだ。：(又侍童を見て) おれが汝の先に立つて歩くと、まるで、一腹分の仔豚をたつた一頭だけ踏み殺さなかつた牝豚といふ格だ。王子の茶目公め、汝をおれの許へ奉公させによこしたのは、大丈夫、おれと照合せにして、笑はせようてんだ。見ツともない蔓陀羅華(根の人參のやうに人)そツくらてのは汝の格好だ。汝は俺の尻に附着いて歩いてるよりやアおれの帽子に挿まれてでもゐるほうが似合はア。おれは、曾ぞまだ瑪瑙玉なんかを従僕にして歩いたとはなかつたんだ。瑪瑙玉と言つたからつて、金や銀へ箆めこみやアしねえぞ、うんにや、今に劣な被物に引包んで、寶石でございと言つて、おい、小僧どん！元の汝の主人の、願にまだ羽根の生え揃はねえあの王子どんの許へ突返してやるぞ。あの願に髭が生えるやうなら、おれの此掌



にも生えるだらうツてくらゐのものだ。それなのに、大將平氣で、己が面  
 を王貨(英國當時の通貨)面だと言つて自惚てゐらア。神の御意次第で、生え  
 備はる時があるかも知れんが、今のところ、只の一筋も無しと來てけつか  
 る。相變らず王貨並に通用しとくもよからう、剃賃はたかゝ六片だ。其癖  
 大將、親父が獨身になつてからつても、もう見事大人になりきつてしま  
 つた積りで威張散らしてゐる。たんと自惚れてるが可い、おれは既う奴に  
 ア愛相づかした、ほんとの。…え、何てつたい、ドンブルドンさんは、おれ  
 のあの短い外套と細袴のことをツ。

侍童

へい、あの、どうかバードルフさんよりも一層好い保證人を拵へて下さい  
 ツて言ひました。あの人の證書も貴下のも取らツしやりやしません。  
 保證人が氣に入らないのです。

フォル

野郎、地獄へ隨ちやアがれ、あの「ルカ傳」の大食漢のやうに！ 舌が火の

やうになりますやうにと祈り  
 やアがれ！ 見ツともないア  
 キトフェルめ！ 碌でなしの、  
 へい、おさやう様で野郎めが！  
 紳士を瞞着しておきやアがつ  
 て、保證人が聞いて呆れらア！  
 見ツともない禿頭の諂諛者め  
 らが、此頃ア定例で、高靴穿き  
 やアがつて、帯にヤ鍵の束アぶ  
 らさげてゐやアがる。で若し  
 ざツくばらんに、云々だ、貸して  
 くれと言ひ込む、すると忽ち保





證人と言やアがる。保証人一件で以て俺の口を塞がうてのなら、いつそのこと殺鼠劑で此息の根を止めつちまつてくれ。おれは紳士だ、縋子の二十二ヤードそこいらア、大丈夫、文句なしによこすだらうと思つてたのに、保証人と言やアがらア。さうさ、奴め、保証附で安心して眠てやがるが可い。おめでたい角の持合せは十分なんだからよ、加之に山の神の軽い尻のお庇で、家内中があかるいてんだからよ。だが、それほどの角の挑灯がありながら、それが奴の目にやア入らねえと来てけつかる。…バードルフは何處にゐる?

侍童

貴下さまの馬ア買ひにスミスフィールドへ往きなさいました。

フォル

彼奴は聖ポール院の境内で買つて來た野郎なのだのに、奴がスミスフィールドへ馬を買ひ出しに往つたつて? これで若し俺が、婢を豚小屋で手に入れるとが出来りやア、下男も、馬も、婢も、諺通りに揃ふといふもんだ。

「淫婦が欲しくばウエストミンスター、野郎が欲しくば聖ポール、馬が欲しくばスミスフィールド」は當時の諺である。

侍童

旦那、あそこへあの貴族さんが來ました、そら、あの、バードルフさんの事で、王子さまに撲られて、それで王子さまを刑罰しましたあの方が來ました。

フォル

こッちへ寄つてろ。あの仁にや逢ひたくない。

フォルスタッフこそ、と逃げかける。

裁判長

(ふと目を附けて、家來に)あそこへ行くのは誰れだ?

家來

フォルスタッフでございます。

裁判

追剝をした嫌疑のかゝつた彼奴か?

家來

はい、さやうです。ですが、其後、シユリユースペリーで大ぶ勳功がございまして、只今は、何か御用命で、ランカスターのジョン王子さまの御陣へ參



る筈になつてゐるとか申します。

裁判 なに、ヨオクヘ?... 彼れを呼戻せ。

家來 (大きな聲で) 士爵ジョン・ストールスタッフ!

フォール (侍童に) 小僧、おれは豊だと言ひな。

侍童 (家來にもつと大きな聲をなさらなくツちや。旦那は豊ですから。

裁 (笑つて) きつとさうだらう、何でも善良な事に關しては... おい、追掛けて

つて、肱を捉へろ。是非、用があるから。

家來 (追ひ追つて) 士爵ジョン!

フォール (捉へられて、空惚けて) おやッ! 若い野郎の癖に袖乞ひをするのか!? 戦争

中ぢやアないか? 職業は幾らでもあるぢやアないか? 王さんの御家

來は足らないばかりだ! 賊軍だつて、兵隊が足らなくつて、困つてるん

だ。王さん方でないのは恥ッ搔きに相違ないが、乞食イするのは一等わる

い方へ身方するよりも尙わるい恥ッ搔きだぞ、假令ば謀叛人て名前以上の  
悪名が、そいつにア附けられるにしてからがだ。

家來 とんだお勤ちがひです。

フォール おや、おれが汝を正直者とでも言つたかい?... 勳士爵道、武士道は姑く

除けといひふが... おれア大嘘吐きだ、若しもそんなことをいやア。

家來 では、ま、姑く其勳士爵道、武士道を除けといひて戴きまして申しますが、...

... 貴下は大嘘吐きです、若しも手前を正直者でないとおつしやいますなら。

フォール 何? 除けといひて戴きましてだ! おれに生え附いてる物が除けられる

かい! そんな勝手な註文を聽いて堪るもんかい。汝のやうな奴ア首縊

られてしまやアがれ。汝は途惑ひをしてるんだ。えいッ、去ツちまへ!

うるせい!

家來 (行かうとするのを又追掛けて) あ、もし、主人がお目にかゝりたいと申すのです。



裁判

(傍へ進んで来て) 士爵ジョン・フォールスタッフ、一寸お話をしたい。

フォール

(はじめて見附けたらしく) や、これは〜！ 先づ以て閣下には御機嫌よろし

う！ 御外出とはお目出たうです、御不快のやうに承はつてゐましたが。

多分、醫師の注意で、御保養かたぐの御遊歩でせうね。閣下はまだお若

いと申してもいゝ位ゐなんですが、多少そのお齡の加減で、幾らかそのお

弱りの氣味ですか。失禮ながら、折角御養生あらせられるやうに願ひ

たいもので。

裁判

士爵ジョン、わたしはねえ、あなたを、シユリユースペリーへ出征なさる以前

に、一度召喚した筈でしたがなア。

フォール

え、失禮ですが、陛下には、何かお氣に召さんことがありまして、ウエール

スから急にお立歸りになるやうに承はりましたよ。

裁判

陛下のことを言つてるのぢやアない。ねえ、あなたは、先だつて召喚した

時分に來なさらなかつたらう。

フォール

それのみならず、陛下には、あの例の碌でもない卒中におなりになつたと

か承はりました。

裁判

さ、どうか大したことのないやうに。…ねえ、お前さんに言ふことがある

のだ。

フォール

その卒中でもものは、失禮ですが、手前の所見では、先づ一種の昏睡のたぐ

ひでござして、血の巡環がわるくなつて、厭アにずきん〜と痛むんでござす。

裁判

何のために其話をするのです！ その事を今話す必要はない。

フォール

酷い悲みや、腦を使ひ過ぎて感亂させたのなぞから起るんでござす。ガレ

ンの醫書に其原因が書いてあるのを讀みましたよ。聾のたぐひでござす。

裁判

あなたも其病ひに罹つてゐるらしいね、幾ら言つても聞えない處を見ると。

フォール

さア。成程、いかさま。いや、その何でござす、手前のはその、どちらかとい



裁 へば、人の言ふことをよく聞かない、氣を付けてゐないといふ病ひでござす。  
拷問臺に掛けて見たら、あんたの其病ひは癒るだらう。 わたしが自身で療治をしてあげても介意はんよ。

フォル 閣下、手前はジョブよろしくの貧乏人でござすが、逆もあの男のやうに、神妙ぢやアありません。 貧乏だから監獄へ入れといてやるとおつしやるのは結構でござすが、閣下の處方通りを、眞病人らしく、神妙に服用するかどうかは、まア丸もんめに對する壹もんめか、とにかくあぶなもんめでござす。

裁 すぐに出頭なさいと言つて、わざつと呼びにやつたのは、足下の一命に係る事件が出来したからであつたのだ。

フォル 手前はまた、ある辯護士から、陸上兵役(強盜行爲)の制裁を少々聴ぎかちつてゐましたからね、こいつはと思つたから見合せましたよ。

裁 (話が通じないと思つて)ぢや、明白にいふが、士爵ジョン、足下は汚名を被せられ

てゐるぞ。

フォル (汚名といふ語を衣服のたぐひと聞きちがへた振をして)斯んなに肥つてますから、その位のものア着ないわけにゃいきませんや。

裁 いや、収入が細い癖に、大きな支拂ひをするのが不審だ。

フォル どうも爲様がないでござす。 収入がもつと太くつて、腹のはうがもつと細くつこけりやいゝと思ふんでござすが。

裁 それに、足下は、御年少の王世子に、いろくゝわるい事をお教へ申した。

フォル なアにあの王子さんが手前にいろんなわるい事を教へたんでござす。 手前は、そら、例の、あの肥満漢の盲乞食でさ、さうして王子さんが奴を引張つて歩く犬でさ。

裁 ねえ、癒つたばかりの古疵を擦りむいて痛ませるのも厭だ。 とにかくシユリユースペーでの勳功の光りで、足下のあのガツヒルの夜戦一件が鍍金さ



れて、まア穩かに濟んだのは、つまり國內が穩かでないお庇だと感謝するが好い。

フオル え、何でござすて？

裁 だが、事なく濟めば結構だから、そツとしてお、きなさい。眠てる狼は起さんことだ。

フオル 狼を起したり、狐を嗅いだりは、どつちもよくないねえこツてござす。

裁 えッ！ まるで、燃しきツちまつた蠟燭のやうな男だ。

フオル 祝宴用の大蠟燭でござす。全部動物の脂肪でござす。老足といふと一寸聞えがわるいが、いかにも陽氣に、脂ぎつて、明々としてるところを御覽なさい。

裁 其白い髭に對しても、足下はもう少しは眞面目になれさうなものだに。

フオル 白い酒や赤い酒に對しちや、逆も眞面身ぢや通されませんや。

裁 足下は、あの年少の王子を附け廻してゐる、まるで悪い天使のやうに。

フオル どうしまして。賈い「天使」(當時の通貨)は、てんで、目方が輕うござすよ。

けれども手前なんざ、一寸見たゞけで眞物だと分るから、掛けて見るにや及びませんや。と、言つたものゝ、或は、通用は難しいかも知れん。何ともいへない。斯ういふ屑々した時世にやア、美德がまつたうに重んぜられないで、勇士を熊の番人にしたり、智者を酒店の番頭にして、勘定三味に頓智を浪費させたりするからなア。今日のやうな悪時代にや、人間にどんな結構な才能があつたつて、木苺だけの價値もありやしない。貴下達のやうな老人にやわたしらのやうな若い者の心持は分らないよ。自分たちの膽汁の苦さを標準にして吾々の肝の臓の熱度を量らうてんだからね。それにねえ、白狀するが、血氣壯んの吾々と來ちや、とかく、その、戲けたところのあるもんでね。



裁

足下は若い者の名簿に名を列ねてゐる積りかい？ 顔を見ると、徹頭徹尾、大きな字で老人と書いてあるんだが。目は始終濕つてるぢやないか？ 手は脂肪が脱けて、頬は黄ばんで、髪は白くなつて、脚は短くなつて、肚ばかり大きくなつて、さうして聲はしやがれて、息ぜはしくなつて、願は二重になり、智慧は廻らなくなり、身に附いたものが何もかも老込んで來てるぢやないか？ それでも尙若いといふのか？ 馬鹿な！ 馬鹿々々しいことを！

フォル

閣下、手前は午後の三時頃に生れたんで、其時から白髪が生えてゐて、肚も幾らか大きかつたんです。聲は、大聲で人を呼ぶのと讚美歌を歌ひつゝ、けたんで、いけなくしつちまつたんです。それ以上の證明は止しませう。要するに、老人めいてる點は、判断力と理解力とだけでさ。若し手前とケ―パー踊りを競争しようて者があるなら、壹千マルクをお賭けなさい、へッ、

裁

いつでもお敵手になつて御覽に入れませ！ 先だつて王子さんが閣下を撲つたのは、ありや亂暴だつたが、あの時の御處分は當然でしたよ。おれは王子をひつ叱つたんだ、で、仔獅子先生後悔してませ。だがね、麻の衣で灰の中ツていふのぢやアない、絹の衣で酒の中と來てゐる。

フォル

あゝ、どうか神がもつとよいお附人を王子に下し賜はるやうにしたい！ どうか其お附人へもつと好い王子を下し賜はるやうにだ！ あのひと手を切りたくツてしやうがないのだ俺は。

裁

時に、王は足下と王子さんとを引離しなすつて、足下は第二の王子ランカスター卿にお附き申して、ヨオクの大監督やノオサンバランド伯の征討に向ふとか聞いたツけが。

フォル

さやう。これア閣下の結構なお才覺のお庇らしいね。だがね、國に残つてゝ、お平和さんとキツスばかりしてゐる貴下たちはお氣を附けなさいよ、



あんまり暑いと戦争はやらかしませんぜ。なぜって、襦袢は、てんで、二枚切しか有つてゐねえんだから、酷く汗イかくやうなことがあつちや困るからね。若しか暑かつたら、只もう塚を振廻してゐようてんだ、で無かつたら、二度とは白唾を吐き申さず候ふだ。何か危険な事が頭を持上げる、定つて御用召だ。さういつまでも續くもんかい！ だけれど、今日までものは、此英國ぢや、定つて、何か好い物さへあると、それを粗に使やアがるんだ。おい、是非おれを老人振ひにしたけりやア、おい、ちツと休ましてくれ。嗚呼、まゝになるなら、おれの勇名が敵方に怖がられてゐないと可いんだ。嗚呼いつそ錆びて、老朽してしまひたい、しよつちう出征を命ぜられて、身を磨り減らしツちまふよりやア。  
 まア、正直におやんなさい。めでたく出征なさい。  
 閣下、壹千ポンドだけ貸してくれませんか、軍用として？

裁

フォル

いや、金は只の一片も貸せないよ、一片も。足下は辛防人でないのだから、到底艱難（金）には堪へさうにないから。さやうなら。わしの親戚のウエストモーアランドへよろしくいつて下さい。  
 裁判長と其家來と入る。

裁

フォル

おれがそれをするやうだつたら、三人力の掛矢で以て、おれを蛙抛げにしてくれ！……老人と吝嗇、若い者と漁色根性、どつちも離れッこはないや。けれども、かた〜は痛風、かた〜は梅毒。ところが、どつちから見ても、おれの口で咒ふわけにやいかない。……（侍童に）やい、小僧！

侍童

フォル

おれの財布に金が幾らある？

侍童

七グロート（一グロートは四ペンス）と二片です。

フォル

財布の此衰弱は、もうどうも療治の爲様がねえなア！ 借りつゝけてゐる



と、命脈だけは取りとめてゐるけれど、つまり、不治の病ひだ。やい、此手紙をランカスターのおれの殿さんの許へ持つてけ。(手紙を渡しつゝ、又一通出して)これは王子さんへ。それから(又一通出して)これはあのアーシユラのお婆アさんの許へ。あの婆アさんとは、此白い髭を目附けてからは、一週間に、キツと結婚するて約束を爲なほしくして来た。さ、早く。汝おれの居どこは知つてゐるだらう。……(侍童入る)。畜生! 又痛風が痛みやアがる! かまふもんかい、跛足オひいたつて。これア戦争で負傷したんで、と言つてくれら。すれば、扶助料が尙と有理らしくならうてもんだ。智謀者は何物をも利用する。病氣までも利用してくれる。

入る。

第三場 ヨオクの大監督の第

大監督リチャード・スクロープ、卿ヘスチングス、卿モウアレー及び卿バードルフ出る。

大監督 擧兵の理由並びに軍備一切の事は、只今申した通りです。諸卿、どうか御腹藏なく、勝敗成否に關する御意見を述べ下されたい。で、先づ式部卿にお尋ねします、どう思し召すな?

モウア 擧兵の理由は成程と思ひますが、軍備に關しては、願はくは、もつとよく御説明をわづらはしたいと存じます、王の強大なる兵力に對して大膽な反抗を試みるに足るかいとかといふ點に關しては。

ヘスチ 現に召集し得た我軍は、名簿上、精兵二萬五千人に上つてゐます。而うし



てあのノオサンバランド伯から大軍の應援がある筈です。伯の胸は、愛兒其他を失つた憤怒で、さながら火の如くになつてゐます。

バード

ヘスチングス卿では問題は斯うですな、……我現在のの貳萬五千人だけの兵で、ノオサンバランドの應援なくとも、對抗が出来るかどうかと?

ヘスチ

その應援があればです。

バード

さやう、そこが要點です。若し彼の人の應援なしでは、力が足らんといふことになる、わたしは、其應援の来るまでは、餘り深入りしないがよいと考へます。といふのは、斯ういふ生死を賭した問題には、多分来るだらう程度の臆測や豫想や推定は許すべからざるものと思ふからです。

大監督

いかにも其通りです、バードルフ卿。シユリュースペリーでのあの熱拍車の場合が正にそれであつたのです。

バード

さうでござんした。彼れは期待を頼みにして、空な應援の約束を糧にし

て、其實は彼れの期待の最小部分にも適しない微小なものをば非常な後援であるが如く自ら欺いて、あゝいふ狂人めいた青年には有りうちの空想に驅られて、死地に全軍を乗入れたのでした。求めて、事實に目を閉いで、破滅の中へ飛込んだのでした。

ヘスチ

ですが、失禮ですが、ほゞ如何いふことになるかといふ期待の形式を豫定して見るのは、必ずしも不都合なことでもありません。

バード

いや、此目前の場合に在つては、實際すぐにやらなければならぬのですから……もう事が運んでゐるのだから……恰も春の初めに、花の蕾の出るのを見て、秋の收穫を豫想するやうなもので、豫想が當にはなりません。それが果實になるかどうか當にはならん、霜にやられてしまふかも知れません。譬へば、家を建てる時分には、吾々は先づ敷地を觀測する、それから圖を引く、それから又家の雛形を見るに及んで、建築費用の見積りをせに



やならんが、それが力に餘るとすると、どうしますか？ 圖を引直して、間敷を減らすか、建築を全然止めるより外に爲方がない。況んや、此大建築、一王國を殆ど引倒してしまつて、別のを打建てようといふ大工事に當つては、敷地の觀測、下圖の製作は無論の事、確實に基礎を定めた上に、測量師との協議も遂げ、自分らの財力調べをもして、其財力で以て果してそんな工事が成し得られるかといふことを量つて見なければならぬ。でなければ、紙の上、數字の上だけで、活きた人間の代りに人の名前だけを用ひて、取固めをするかである、建てる力がなくつて圖だけを引く者のやうに。半分どこまで行つて見て、大損をして、其裸身の建築を雨晒しにして、亂暴な冬の暴風の打毀すまゝにするのが結末です。

假に、吾々の期待が流産になるとしても、大丈夫、安産だと思ふのですが、又現在以上の身方の兵は一人も得られないとしても、我兵力は、このまゝ

ヘスチ

でも、王の軍に匹敵するに足ると思ひます。

バード

え、ぢや、王の兵は只た二千五百人ですか？

ヘスチ

吾々に取つてはです。いや、バードルフ卿、それだけにも當らん位なのです。といふのは、目下、騒亂が三ヶ所にも起つてゐるので、王は其兵を三分したのです。一軍は佛軍へ向け、一軍はグレンダワーへ向け、更に一軍を以て吾々を敵手にせにやならんのです。さういふ風で、落着きのわるい王座が三つに割れてゐるといふものです。それに、彼れの金庫そのものが空で、がらんだうな音をさせてゐます。

大監督

さア、其數箇軍を一纏めにして、大舉して王が攻寄せるなんぞといふことは、ま、有るまじきことでせうなア。

ヘスチ

若しそんなことをした日にやア、背後が無備へになるから、佛軍とウェール軍とが彼れの踵へ吠えかゝることになる。それは決して心配にや及びま



せん。

バード　こゝへ王軍を率ゐて来るのは誰れですか？

ヘスチ

ランカスター公爵とウエストモーアランドです。ウェールスへは王とハーリー・マンマス(王世子)が向ふといふことです。が、佛軍へは誰れが代るかまだ確かな知らせがありません。

大監

進んで擧兵の理由を發表することにしませう。國民は、自分で推戴した其王の爲に、病氣になつてゐる。可愛がり過ぎて、壓いて、嫌ひになつてゐる。あゝ、民衆の鼠屑ばかりが土臺の住居は、ぐらついた危なかしいものだ。……おゝ、汝等、愚民共よ、汝等は、あのボリングブロックがまだ汝等の欲するがやうになつてゐなかつた時分には、天を拍つやうな偉い歡呼喝采をして、彼れのために祝福したのであつたに、今日汝等の望み通りの光榮に包まれてゐる段となると、意地ぎたなめらが、もう食ひ飽いて、自分で

故と求めて催吐かせて、奴を吐出してしまはうとしてゐる。さういふ風に、犬め、汝等は故王リチャードをも、其意地ぎたなの胸から、吐出しをつた。

然るに、今また、其吐いた死人を食ひたがつて、搜し廻つて、長吠えをしをる。現代の者共は些も信用が出来ん！ 故王が生きてをられた間は、早く死ねがしにしてゐた手合が、今は其墓にすら戀々としてゐる。彼れが

萎れ返つて、一代の寵兒ボリングブロックの踵に尾いて、傲然たるロンドン市へやつて來られた時に、其頭上へ塵埃を抛附けた汝等が、今は「おゝ大地よ、あの王を戻して、此王を持つてつてくれ」と叫きをるか！ おゝ呪はしいは人間の根性！ 過去と未來だけが善く見えて、いつも現在をわるく思ふ。

モウブ

では兵員を集合させて、出發しませうか？

ヘスチ

時機を誤らないのが肝腎です。さうして時機は今直に進發しろと命じて







女主 お組下の方は何處にいらつしやいますの？ 其かたは逞しい方ですか？  
大丈夫ですか？

ファン (振返つて) 此ら、スネーアは何處にゐる？

女主 おや、まア！ もし、スネーアの旦那！

スネー こゝにゐます、こゝに。

と此時、前へ進む。

ファン なア、スネーア、士爵ジョン・ファールスタツを捕縛せにやならんぞ。

女主 はい、さやうてござんすよ。わたしから告發しましたんですからね、あの仲間を皆な。

スネー だれかしらの命に係るかも知れませんねえ、奴め、ずぶりやりかねないから。

女主 ま、何て情けないこつたらう！ 御用心なさいませよ。あの人現にわた

しん店で以て、ずぶりやつたんですからね、そりやもう亂暴ツたらないの。ふんとにあの人、抜いたりといや、何するか分つたもんぢやアない。だれでも關はず突通すんですからね、男でも、女でも、子供でも。まるで悪魔ですよ。

ファン なアに、組附いッちまやア、突通しやアがつたつて、かまつたことアない。

女主 さうですよ、わたしだつてもね。お加勢しますよ、お傍にゐて。

ファン 捉へさへすりやアね。奴が此萬力の範圍内へ入りさへすりやア……

女主 あの人を逃した日にやわたしア身代限りですの。ふんとに、あの方は、わたしのお庇で、えびり返つてるんですよ。ファングの旦那、しつかり捉へて下さいよ。スネーアの旦那、逃しちやいけませんよ。あの方はバイ・コオナーへ常住來ますのよ、旦那の前ですけれどね、鞍を買ひにね。それからランバート街の病頭軒(豹頭軒)や呉服屋のスムースさんのお宅へ折々



表題（招待）されて行きますのよ。わたしが獄發したてことは既う一ぱい  
 に大評判なんですからね、どうぞね、是非お捌きになりますやうになすつ  
 て下さい。百マルクていへば、可哀さうに、寡婦に取つちや大變なもんで  
 さアね。わたしアこらへてくくゝわたんですけれど、明日は必然、明日  
 は必然と瞞着されくくして今日になツちまつて、思ひ出すたびに、自  
 分ながら馬鹿々々しくツてならないんですよ。如是ことでものが有つて  
 堪るもんかね、女は皆なく、驢馬か野獸かになツちまつて、悪漢の爲たい  
 がいにならんけりやならなけれア知らんこと。……あ、あそこへ來ました。  
 赤ッ鼻の悪黨のバードルフも一しよに。さ、さ、早くお役目をなさいよ。  
 ファングさん、スネーアさん、さ、さ、早くお役目をなすつて下さい。

フオールスタツフ、侍童とバードルフとを伴れて出る。  
 とファングはつかくくと進み寄つて遮る。

フオール おや、何だ！ だれかの馬でも死んだかい？ どうしたてんだ？

ファン （フオールスタツフの肩へ手を掛けて）士爵ジョン、女主のクィックリーからの訴訟で、  
 お手前を取押へるから、さう心得なさい。

スネーアも直に進んで捉へようとする。

フオル えいッ、そツちへ往け！（一寸立廻つて）やい、抜け、バードルフ！（とバード

ルフを引張つて小盾に取つて）其奴の首ツ玉を斬ツちまへ。其賤婦を溝ン中へ  
 叩き込んちまへ。

女主 わたしを溝へ叩き込む！ おのしを溝へ叩き込んでくれる。何だ、叩き

込む？ 叩き込む？ うぬれ、父無し兒の悪黨野郎め！（此間こツちやの立廻り）

人殺しイ！ 人殺しイ！ うぬれ、殺尊菜の悪黨野郎め！ やい、神さま

のお役人衆でも王さまのお役人衆でも殺しやアがるのか？ うぬれ、殺前

裁野郎め！ 此殺前裁の、男ころしの、女ころし野郎め！





フォル やい、バードルフ、こいつらを叩きのけろ。

バードルフはフォールスタッフに加勢する。相手はスネーアとフアングとで都合四人の大立廻りになる。女主は、氣を揉んで、其周囲を馳け廻つて叫り立てる。

フラン おい、應援だ！ 應援だ！

女主 (應援の意味が解らず傍らへ向つて) もしく、早く應援を持つて

来て下さいいな、二つ三つ。(フォールスタッフが躍りかゝるので、あはて、逃げ退きながら) え、見事さうする氣かい？ お前が、え、お前がかい？ さ、さうして見ろ、こん畜生！ さ、さうして見ろ、さ、此殺穢めが？

フォル (組附かれて不細工に立廻りながら) えい、うぬ、下郎めら！ 此へちやむくれ野郎が！ うぬ、三尺棒野郎め！ 見ろ、今に尻子玉ぶツくらかへしてくれから。

此騒ぎの最中に、一方から、裁判長ガスコインが其従者らを従へて出る。

裁判 (此體を見て) どうしたのだ？ ……こりやく、しづかにしろ、静かにしろ！

女主 (泣き聲を出して) お殿さま、お助けなすつて下さいまし。どうぞわたくしをお助けなすつて。

裁判 士爵ジョン、どうしたといふのだ！ なぜ然うがみく言ひ争つてゐるの



だ？ 時節柄といひ、お前さんの身分や勤務に似合つたことかそれが？  
もう夙にヨオクへ往つてゐなさらなけりやならん身分だ。……こら、離れ  
てろ。 なせ彼の仁に搦み附くんた？

女主

あゝ、もし、お殿さまに申し上げます、恐れながら申し上げます、わたくし  
はイーストチープの哀れな寡婦でございます。 あの人はわたくしが獄發  
しましてお召捕になるのでございます。

裁判

で、その金額は？

女主

お金ばかりぢやございません。 わたくしの持つてゐる何かもでございま  
す。 家も宿も何もかも食ツちまつたんでございます、皆なあの肥つたお  
肚中へ入れツちまつたんでございます。 せめて幾らか取返さなくツち  
やならん、(とフォールスタツフに)返さなきヤうぬ、其肚へ夜中に乗ツかつて、  
魔されさせてやるから、然う思へ。

裁判

士爵ジョン、一體どういふ理由なのだ？ え！ 苟くも紳士たる者が如是  
風に怒鳴り立てられて、平氣であるといふことがあるか？ 哀れな寡婦な  
んぞに、其財産を恢復するための告發を餘儀なくさせるに至つたのを、足  
下は恥かしいとも思はないのか？

フォル

(女主に)おれが汝に借りたてのは幾何あるのだ？

女主

約束が虚でなけりや、先づお前の身體よ、それからお金。 お前は、わたし  
に誓言しましたよ、あの半鍍金の酒盃で飲んでゝさ、そら、あの、わたし  
處の海豚の室でさ、圓卓子で、海石炭に當つてゝね、そら、降靈祭の水曜日  
に、あの時、王子さんがお前の頭を割つたらう、お父さまの王さまをお前が  
ウインゾアの唱歌手に似てると言つたんで。 ちようどあの時だわね、お前  
がわたしに誓言したのは。 わたしが創を洗つてあげてると、わたしと夫  
婦になつて、わたいを奥さまと呼ばせるツて言つたぢやないかね？ さう



ぢやないと言へるかい？ ちやうど其處へ、あの牛屋の内儀さんの阿豚さんがやつて来て、わたいをお喋舌屋のクイクリーさんと呼んだらう？ 酢を少し借りに来たの、小鰻が十分一皿分あるからッて。と、お前がそれを食ひたいでッたわね。すると、わたいが新創には毒だッて、止めたらう？ それからお前が、キーチさんが階子を降りてツちまふと、然う言つたらう、あゝいふ下等な者とは最早これからは親しくしないが可い、もう直に奴らに奥さまといはれるんだからッて？ さうしてわたいをキッスして三十志だけ持つて来てくれると頼んだぢやないかね？ さ、聖書で返辭をしとくれ。出来るもんなら、そりや嘘だといつて御覽。

フォル (裁判長に) 閣下、こいつは惘然な狂人です。この女は町中を怒鳴つて歩いてます、自分の惣領が閣下にそつくりだといつて。もとは樂に暮してゐた者ですが、貧の爲に亂心したのです。時に、此馬鹿役人共に對しては、

裁 手前の名譽回復の爲に、相當の御處分を願ひます。士爵ジョン、士爵ジョン、わたしは君が理を非に曲げることの名人だといふことをよく知つてゐるよ。眞面目くさつた顔をして、無遠慮以上の圖々しい口上を幾ら並べ立てたとても、わたしは決して觀察の公平を誤るやうなことはしない。察するに、足下は此女の騙し易いのに乗じて、財布をも肉體をも足下の用に供せしめたのであるらしい。

女主 はい、全くさうなんでございますの……

裁 ま、黙つてゐてくれ。……彼女に借りたヶけを支拂つて、尙彼女に對して働いた下辱を償ひなさい。すなはち、かたくは通貨で、又かたくは痛恨で、懺悔で。

フォル 閣下、さういふお叱りを受けちやア黙つちやをられません。閣下は正直に大膽に物を言ふのを無遠慮だの、圖々しいだのとおつしやる。へん、べ



コノお辭儀をして、黙つてりや君子なんだ。(傲然として)いゝや、閣下、身  
分を忘れアしませんか、其お言葉にや服しませんぞ。いゝや、是非とも、  
此役人共をお取拂ひ下さい、手前は陛下の御用向で、すぐさま出發せにや  
ならんのですから。

裁

まるで悪い事をするのを許されてもゐるやうな口吻だが、まあさ、足下  
の名譽柄に相當したけの償ひを其女にしてやんなさいよ。  
女主さん、こゝへ來な。

フォル

フォルスタツフ一隅へクイツクリーを引張つて行く。 廷臣ガワー書  
状を持つて出る。

裁

や、ガワーさんか、何か變つたことでも?

ガワー

閣下、陛下と王子ウエールス公とが程なくお着です。 餘事は此御書面に。  
(女主に)おれは紳士だ、大丈夫だよ。

フォル

女主

(甘たれて)ほんに、先だつても然ういひなすつたわね。

フォル

大丈夫だよ。 さ、もう其事は言ツこなし。

女主

それだと、いよく以て、わたいは、あの皿も、あの食堂の壁代も皆な質に  
入れツちまはんけりやならなくなツちまふわ。

フォル

酒盃々々、あれがありさへすりや飲めるよ。 あの壁にやア、一寸した變な  
戲畫か、放蕩息子の話か、水彩で書いた日耳曼人の獵の畫かなんかあり  
やア、あんな寢臺帷やあんな蟲くひだらけの檻壁代なんぞよりやすツと  
優だ。…(女主の泣くく行きかけるのを止めて)なア、出來たら、十ポンドにして  
くれ。 これさ、其悪い癖さへなけりや、おぬしのやうな好い女ツ子は又と  
英國にゐやしねえいんだに。 さ、その顔を洗つて、告發は下げツちまひ  
なよ。(といろくに嗽す)。 おいゝ、おれに向つてそれぢや困るぢやない  
か? え? おれの氣心を知らねえやうによ! さ、さ、必然だれかに煽



動たでられたんだらう。

女メ主ヌシ (まだ泣聲なみこゑで)ねえ、ジョンさん、二十ノールブルだけにしとくれな。ふんとに、

わたい、あの皿さらは入質まげたくないからさ、後生ごしやう、一生しやうのお願ねがひだからさ!

女メ主ヌシ 勝手かたてにしな。(憤むだれて突つと離はなれて)ちやア外ほかでこしらへらア。やッぱり馬鹿はかで通とほしたいんだなおぬしは。

女メ主ヌシ ちや、持もつて來くるよ、あの上被うはぎを曲まげても好いいから。お夜食やしよくに來きておくれ

女メ主ヌシ だらうね? 皆みんな一いっしよに支拂しはらつてくれる?

女メ主ヌシ 大丈夫だいぢやうぶ! ……(バードルフに)おい、奴やつと一いっしよに往いけ、一いっしよに。釣つるんだく。

女メ主ヌシ お夜食やしよくの時ときに、ドール・チャシート(其實じつじやうは淫賣婦いんばいふ)さんを呼よんでも好いいこと? 女メ主ヌシ もう文句もんくなし。呼よんでも好いい。

女メ主ヌシ もバードルフも役人やくにんらも侍童さむらいどうも入いる。

裁メ (書狀しやうじやうを此間こゝに讀よみ了しまつて)こりや大分たいぶん善よい知しらせだ。

女メ主ヌシ (前まへへ進まんで)どういふお知しらせです?

裁メ (それそれに關かまはずにガワーに)王わうは昨夜ゆうべどこでお泊いりになつたね?

女メ主ヌシ ベーキングストロークでお泊いりになりました。

女メ主ヌシ 萬事ばんじ上首尾じやうしゆびでせうね? どんなお知しらせですか?

裁メ (尙なほかまはずに)御部下ごぶかの兵士へいしらも皆みんなな歸かへつて來きたのかね?

女メ主ヌシ いや、歩兵ほへい一千五百せんごひゃくと騎兵きへい五百ごひゃくとを、ランカスター卿きやうが御引率ごいんそつになりました、ノオサンバランドと大監督だいとくごとを御征討ごせいとうに相成あひなるのでございます。

女メ主ヌシ 王わうはウェールスからお歸かへりでございませうか?

裁メ (尙なほかまはずに)すぐ返書へんしよを認しんめて渡わたしませう。さ、ガワーさん、一いっしよにお出いでなさい。

と先に立たつて行いきかける。



フォール 閣下!

裁 (はじめて気が附いたやうに) 何ですなり?

フォール (それには關はずに、ガワーに) ガワーさん、御會食を願ひたいがいかがでせう?

ガワー 手前は裁判長閣下のお宅へ参らんければなりませんから、ありがたうござすが。

裁 士爵ジョン、足下はいつまでこゝに愚圖ついてゐるのだ? 途々各州で兵

士を募る御用を仰せ附かつてゐるぢやアないか?

フォール (尙ひまはずに) ガワーさん、御會食を願ひたいですなア。

裁 士爵ジョン、さういふ招待の爲方を教へたのは、何處の師匠か知らんが馬鹿な男だ。

フォール (初めて見返つて) ガワーさん、他の振見て我振なほせツてね、もとくだれが教へたかねえ。(と裁判長を尻目に高笑ひして) 閣下、これが劍道の極意ですが、

裁 五分と五分! これでやツと好い氣持になつた。

やれく、困つた男だ! 大馬鹿者だ。

みなく入る。

第二場 ロンドン 他の街上

王世子ヘンリーとポインズと出る。

王子 ほんとに、非常に疲れツちまづたよ。

ポイン そんなですか? あんたのやうな偉い御身分の方は、疲れるなんてことア無からうと思つてましたにねえ。

王子 全く疲れたよ。斯ういふと、少々おれのお偉い御身分柄に障るけれどもね。おい、「家醜が飲みたいなア」と言つたら、下品に聞えるかい?



ポイン

だツてね、そんな一夜醸りなんかを王世子さまが覚えてゐなさるやうぢやア、平素のお行儀が思ひやられまさアね。

王子

ぢや、おれの食意地は生得き王子らしくないんだらう。だツて、全く、奴を、あの家醜で奴を覚えてるんだもの。だけれど、實際、こんな下等なことばかり考へるのは、おれの御身分柄にや似合はないや。第一、汝の名前を覚えてるなんかは俺の恥辱だ！ 明朝汝の面を見知つてゐるなんか！

縮の長靴下を汝が何足有つて、其中何枚は如何で、何枚は既う桃色になつてゐるなんてことまで！ 或は、汝の襦袢が何枚あつて、一枚は着替で、一枚は常着のだなんてことまで！ もつとも、こりや、おれよりもあの庭球所の看守者の方がよく知つてゐる。何故ツて、汝が打毬棒を握らない時は、必然汝の麻布運の退潮時に限るんだからよ。現に汝ア大ぶ長いこと出掛

けなからうぢやないか、彼處へ？ 其筈だ、低地方が例の如く膨張したた

めに、上部の和蘭國全部沈没といふ御難に逢つたんだからなア。其襦袢の襤褸に包まれて呱呱と言つてゐる先生がどれだけ生長つか？ けれども産婆に聞くと、子供衆に罪はないといふよ、世の中が賑かになつて、親族範圍が擴張されるわけなんだからね。

「低地方」とは和蘭國の低地方の海波に侵され易いのと私窩入りの費用の嵩むことに引掛けた洒落である。女に金がかゝるので、上體部の被服費が悉く盡盡に及んだといふ意味。私生兒も戦時には國の寶、云々。

ポイン

どうも不釣合ですなえ、あんな立派なお手柄をなすつた後で、そんなくだらもないことをおつしやるてのは！ ねえ、もし、立派な王世子さまで以て、お父さまが御病氣でいらつしやる最中に、あなたのやうなことをなすつたり、言つたりしてゐなさる方が、外に何人あるんでござんせう？



王子 おい、ポインズ、旨いことを聞かしてやらうか？

ポイン へい、どうぞ。素敵に妙てなことをねえ。

王子 汝程度の耳に聞かせるにやア先づ十二分といふ名文句だ。

ポイン 人を！ あんたのおつしやらうてこと位にや、負けやしませんよ。

王子 ちや、言はうか、親父が病氣だから、おれが心配顔をしてゐるのは、頗る妙でないんだ。其實、汝を假に信友だとして、外に信友らしい奴もゐないからね、ほんとの事を打明けて言ふが、實にその、心配になるんだ、……全く心配でたまらないんだけれど。

ポイン あんまりさうでもなさうですなえ。

王子 ちや、汝は、俺を汝やフォールスタッフと同格の徹底的の無情漢だと思つてゐるんだな、それほど悪魔の連判状へ深入りしてると思つてゐるんだな？ 今に爲上げを見てな。いゝえ、實際、おれは血が出るほど心配してゐるんだ、

ポイン 親父の病氣を。けれども汝のやうな奴らを友達にしてゐてことの爲に、自然の道理上、平氣な面アしてゐなけりやならんのだ。とおつしやるのは？

王子 どう思ふ汝は、おれを？ 若しおれがめそ／＼泣いてゐるとしたら。

ポイン うまく白ばツくれて、孝行ぶつておいでなさると思ひますア。

王子 だれだつて然う思ふだらう。巧く皆なの思つてゐる所を言ひあてたよ汝は。世上一般の思はくが決してそれ以外にや出ないよ。みんなが俺を白ばツくれてると思ふだらう。ところだ、足下が然うお思ひ付き遊ばしたのは、どういふ理由からだい？

ポイン だつて、あんたの今までの御品行があんなだし、加之に、お友達はといへばフォールスタッフや…

王子 それから汝や…



ポイン とんだことを。わっしやこれで中々評判が好いんです。聞いても耳が痛くないやうなことばかり言はれつけてまさ。わる口も、せいなく、あの男は二男坊だの、あの仲間の利権者だぐらゐのもんでさ。此二つだけは、參ッちまひますがね。……おや、バードルフが來ました。

バードルフと侍童と出る。

王子 フォールスタッフの許へ遣つた小僧も來た。遣つた時までは基督信者だったが、見な、あの肥滿漢め、小僧を猿猴に化けさせッちまつた。

バード へい、御機嫌さまよろしう！

王子 やア、これは、バードルフ閣下、閣下にも御機嫌よろしう！

バード (侍童に) ころ、どうしたね、羞恥屋の大馬鹿三太郎どん、なぜそんなに恥かしかるんだ？ なぜ急に赤い顔をするんだ？ 何てま、娘ッ子見たやうな兵隊さんになッちまつたんだ！ 眞赤になる理由なんかねえ筈だに。

侍童

(王子に) 御前、あの人が、つい今がた、あの酒店の赤格子の中からわたくしを呼びましたんです、けれど、窓の何處を見ても顔なんか見えませんでした、其うちに、やッと目だけ見えましてんです、まるで、その、あの女主さんの赤袴に穴があいて、そこから覗いてるのがと思ひました。

王子

(吹出して笑ひながら、ポインスに) 中々巧いことをいふやうになつた。え？

バード

(大きに憤れて) 去ッちまへ、うぬ、穢らしい二本足の南京兎め、去ッちまへ！

侍童

去ッちまへ、うぬれ、碌でなしのアルシヤ婆さんの夢の化物、去ッちまへ！

王子

おい、小僧、教へてくれ、そりや如何いふ夢だ？

侍童

あのウ、昔しギリシヤのアルシヤとかいふ婆さんが、燃え杭を産んだ夢を見たといひますから、それで私しはあの人のことをアルシヤの夢のお化けといふんです。

王子

旨い解釋だ、たしかに一クラウンの價値がある。……さ、褒美。



と侍童に金貨を一つ遣る。

ポイン あゝ、どうか此好い蕾を螟蛉にしてやられませんやうにだ……さ、保存料におれも六片與らうよ。

と侍童に銅貨を遣る。

バード (いよく憤れて) そんな風に玩具にして、終ひにや縊殺されるやうな人間に爲上げツちまふんだ、で無きや紋罪臺てものは上つたりだ。

王子 バードルフ、汝の主人はどうした?

バード 丈夫でございます。殿下が町へお出でになると承はりまして、それで此書面を。

と恭しく跪いて渡す。

ポイン よう、感心! 御作法通りだ。……おい、お前の旦那の小春日和さんはどうしてるね?

バード 身禮は丈夫だよ。

ポイン が、靈魂の方にはお醫者が要るね。けれども大將自身は平氣の平左だ。

靈魂は病んでも浮氣は止まぬと来てけつかる。

王子 (此間に書状を読みさつて) おれがあゝの瘤めを飼犬のやうに甘えさせておくもんだから、好い氣になつて、見な、此書きッぷりを。

と書状をポインに渡す。

ポイン (讀む)「勳爵士ジョン・フォールスタッフより」……名宣りを掲げるたびに、だれでも彼れでも、勳士爵さまてとを拜聴しなけりやならんから厄介だ。

まるで王様の御血統の格だ。ちよつと指の先から絲ほどの血が出て、

「や、物體ない、王家のお血滴を溢した!」と来る。で、故と解らん介をして「どういふ理由ですか?」と問ねると、待つてましたといふ風に、「實はわたしは王とは再從兄弟同士です」と来る。其機敏いこと、まるで金を借り



る男の脱帽よろしくできさ。

王子 さうとも、奴らは、ノア時代までも遡つて、同血統だと言はうとしてゐる。  
……だが、ま、その書状を。

ポイン (讀む)「勳爵士サア・ジョン・フォールスタフより直ちに御尊父に接近せらるる王子、ウエールス公爵ハーリーどのに呈言す。」……まるで、命令書の書式だこりや。

王子 しッ!

ポイン (又讀む)「予は彼の名譽ある羅馬人らを學んで簡短に言はんとす」。其筈だ息が切れるだらうからなア。「すなはち足下に敬禮し、足下を奨勵し、足下に告別す。餘りにポインスに親しむこと勿れ、彼れは足下の優遇を濫用して、足下は彼れの妹ネルと結婚すと言ひ觸らしをれり。間を得て須からく反省して、悔い改められよ。さらば。

王子 足下の待遇次第にて、其部下をも、其兄弟姉妹をも、全歐羅巴をも擧げて以て足下の莫逆たらんとする士爵ジョン・フォースタフより。

御前、此手紙を酒に漬けといて、奴に食はせませうよ。

王子 それぢや言を食せる道理になるから、てんで奴のお手の物で、罰にやならんよ。だが、ネッド、お前は俺をそんな風に言ひ觸らしてゐるのか? お前の妹と結婚するツて?

ポイン そんなことになりやあの娘の大幸福でさ! けれどもそんなことアいやしません。

王子 おれたちが如是馬鹿な真似をしてゐるのを、賢明な精靈たちが必然あの雲の中にて、見下して笑つてゐるだらう。……おい、汝の此主人はロンドンにゐるか?

バード へい、さやうです。



王子 ところで飲食のめいひをしてる？ やッはり元もとの豚小屋ぶたこやで食くつてるのか？

バード へい、もとの店ととです、イーストチーフです。

王子 仲間つれは？

侍童 やッぱり元もと通りもとどほの飲助エフエシヤンス連れんです。

王子 誰たれぞ女をんなも一ひとしよか？

侍童 クイックリーの婆はアさんの外ほかには、ドール・チャシートさんだけでございます。

王子 そりやどういふ邪教徒ペイガレンだ？

侍童 立派りつぱな御婦人ごふじんでございます、へい、旦那たんなの御親類ごしんるゐなんです。

王子 村むらの牝牛めうしは町まちの牡牛おしの御親類ごしんるゐが聞いて呆あはれる。……おい、ネッド、窃そつと夜食やしよく

侍童 時分じぶんに襲おそはうちやないか？

ポイン 結構けつかう。影坊師かげぼうしの役廻りやくまはでお伴ともいたします。

王子 こら、小僧こぞう、それからバードルフ、おれが町まちへ來きたてことを汝きよまらの主人しゆじんに言い

バード つちやいかんぞ。さ、口くちどめ料れうを遣やる。

侍童 何なんにも言いやしません。

王子 わたくしもきツと言いはないやうにします。

王子 さよなら。……往ゆけ。……

バードルフと侍童と入る。

(ポインに) なア、そのドール・チャシートとかいふ奴やつは、きツと御通行ごつうかう御隨ごずい

ポイン 意い的てきなんだらう。

王子 大丈夫たいぢやうぢさうでしよ、本海道ほんかいだうでせう。

ポイン どうしたら今夜こんやあのフォールスタッフの地金ぢかねそのまゝてとこを襲おそふことが

出来できるだらう？ こちとらの顔かほを見みせないやうにしといて。

ポイン あなたもわたくしも柔革なめしの短表衣じやうぎんを着きて、前掛まへかけを掛かけて、給仕人きうじにんになりす

まさうぢやございせんか？



王子 神さまが牡牛に化けるのか？ 酷い墮落だ！ ジョーヴ神よろしくだ、王子から年期小僧へ、随分の御零落だ！ それがおれの役廻りだ。何事でも目的次第だ。馬鹿な真似も止むを得ない。……さ、従いて來な。入る。

第三場 ウォアヲオス。城の前。

ノオサンバランド伯、伯の夫人及び故熱拍車ハーリーの未亡人出る。

ノオサ 愛する妻よ、やさしい嫁よ、どうか此荒々しい仕事は、おれのするまゝに、そつとしておいてくれ、世間一般のやうに、苦い、むづかしい顔をして、彼等と一しよになつて、おれを妨げるやうなことをしてくるな。  
 伯夫人 では、もうわたくしは何も申しません。思し召し通りに遊ばせ。御賢慮

のまゝに。

と立離れて泣く。

ノオサ あゝ、愛する妻よ、わしの名譽は質物になつてゐるのだ。出陣しないぢや、それを受戻すことは、約束した以上、出来ない。

未亡人 あゝ、でもまアどうぞ御出陣遊ばさないで下さい！ お約束とおつしやいますけれど、ねえ、お父さま、今よりもずつと大切な場合にすら、あなたのお子の、わたしの大事なく、ハーリーが、今にもあなたの御援兵が來るか、と幾度も北の方を詠め詰めて居ました時にすら、あなたは御違約なすつたぢやありませんか？ ハーリーは待惚けをくつてしまひました。あの時、だれが御出陣をお止めしましたか？ 一度に二つの名譽が潰れました、あなたのと御子息のと。あなたのは、どうぞ將來また照り優りますやう！ ハーリーのは、……空の灰色を照らす太陽のやうに、英國中の若



武者たちを勇み立たせる光明であつたものを、壯士、勇士の姿見鏡であつたものを！ ハーリーの歩きぶりを真似ない者は脚無しと言はれ、あの悪い癖とも思はれた夫の早口が、つい勇士の口吻だとまでなりまして、沈着いて悠然完全に言ひ得る者までが、わざと夫の口真似を致しました程で、歩きぶりから、飲食から、娯樂、軍法、氣分、何もかも、夫が世の人的とも、鏡とも、手本ともなつたのでありました。其夫をば、お、世に稀な、人間の奇蹟の、一と言つて二とは下らない其夫を、あなたは援けようともたさらないで、熱拍車といふ綽號の外には、何の備へもない戰場へ進軍させて、死地におとし入れておしまひなさいました。お、今さら、他人の爲に、夫に對してなすつた以上に、約束をお守りになるのは、夫の靈を侮辱遊ばすのに當ります！ 決してそんなことをなすつちやいけません。式部官どのも大監督どのも、十分に兵を有つてをられます。夫ハーリーにあの

ノオサ

人たちの半分の兵があつたなら、キツとわたしは、今現に夫の首に搦み着いてゐて、あのマンマスメの墓の事でも噂してゐたでせうに！  
ま、何といふことだ、折角忘れてゐたものを、又それを言ひ出して、わしの勇氣を挫いてしまふ。いや、どうしても出陣せねばならん、生中今それを避ければ、他日一層不備の際に、危険に出逢はねばならん。

伯夫人

未亡人

お、蘇國へお逃げなさい、貴族や平民らに、ま、少と其力を試させるまで。あの人達が、王と戦つて、幾らか勢ひがよくなつた時分に、一しよにお成り遊ばせ、強いが上へ強さを與へる鋼鐵の肋骨のやうに。どうぞ、願ひですから、先づあの人達におやらせなさいまし、夫が現にさうしました。さうして犠牲となりました。で、わたしが寡婦となつたのです、迷迭香に此目から降る雨を、生きてゐる限りは、降り灑いで、あの氣高い夫の記念のために、それを天へまでも達かせようと思ひますけれど、それまで生きて



ノオサ

をられさうもございません！  
 さ、さ、奥へ一しよにおいでな  
 さい。わしの心は、ちようど  
 上げ盡した潮同様、今のところ  
 居据りて、退くことも出来ず、  
 上げることも出来ぬ。大監督  
 に會ひに行きたいが、いろく  
 の仔細あつて、それも出来ん。  
 蘇國へ行くことに定めよう。  
 いよく時機が来て、おれの出  
 陣を要するまでは、あそこにお  
 よう。



入る。

第四場

ロンドン イーストチープ街の猪頭軒

二人の給仕人、甲と乙、出る。

甲

何を持って来たんだい？ ジョン林檎か？ ジョン林檎は士爵ジョンが大嫌

乙

ひぢやねえか？  
 全くだ、その通りだ。王子さんが一度あの人の前にジョン林檎を一皿分載  
 けていて、こゝにまだ士爵ジョンが五人ゐる、といつて、それから帽子を脱  
 ぎなすつて、「さて此六人の乾からびた、まん圓な、皺くちやお爺さんの動  
 爵士にお暇を致します」と言ひなすつたもんだ。大將怒つたよ、あの  
 時ア、ほんとに。けれども既う忘ツちまつたらうよ。



甲 ぢやア、布かぶせて、据ゑるとして見な。それから、あの、囃子方のスニークの連中がゐるか、見てくんな。チャシートさんが、お囃子が聞きたいでッてるからね。

乙 おい、足下、今に王子さんとポインズさんとが来るんだぜ。さうしておいらたちの此短表衣と前掛を着込もうてんだ、士爵ジョンにヤ決して氣取られねえやうにしてね。バードルフがさう言つて来たよ。

甲 そいつア面白いことになるだらうぜ。素敵な陰謀が有りさうだ。  
乙 スニークが目附ければ好いが。

二人とも入る。

女主 クイックリーと盛装したドール・チャシートと出る。

女主 ねえ、ドールちゃんや、ふんとに、あんた、大變に、素敵に、元氣を害復(恢復)なさいましたよ。第一、あんたの手の脈が、滅法界もなく、立派に搏つて

まさアね。それに、月色(血色)の佳くなつたこと、ふんとよ、まるで薔薇のやうに眞赤ですよ！ だけど、實際、あんた、ちツとカナリー(酒の名)を飲み過ぎましたね。ありや、怖しい強い酒ですよ。血が焔硝(燃焼)するんですからね、「あら、どうしたんだらう？」とさへもまだ言はないうちに。……どうなの、今？

ドール すツと好いの。えへん！

女主 ぢや、ま、結構。心持が好いのは千兩ですからね。……あら、士爵ジョンが来てよ。

フオール スタッフ鼻唄を歌ひつゝ出る。

フオール 「むかしアーサーさんが王位に即いて……おい、尿瓶を空けてくれ。……古今稀なる王者と呼ばれ」……

給仕人甲 入る。



フォーリストスタッフ此時ひそつてゐるドールに目を附ける。

おや、どうしたんだい、ドールちゃん！

女主 少しね、向ひッ氣で不良いのよ。然、ふんと、實際。

フォル そりや此手合の定例だ。少し向ひ風となると、船が出せねえから大回みだ。

ドール お前さんの病氣見舞の口上はそれッきりかい？ 此唐變木が。

フォル 唐變木にや俺のやうな如是太ッこいのはねえ筈だが、どうかすると如是の  
が出来るかいい？

ドール 出来なくッてよ！ 暗雲に飲食つて、悪い病ひに罹り放題にすりや其通り  
にならアな！

二人の言葉だ、かひが段々口ぎたなくなり、果は掴み合ひ  
さうになるので、女主が割つて入つてなだめる。

女主 又はじまつたよ、ふんとに。あんたゝちは、一しよになりさへすりや、何

か知ら争論をはじめなんだよ。あんたゝちは、ふんとに腎経質で以て、ま  
るで焼麵麩を二つ一しよにしたやうに、直に合轢するのだから爲様があり  
やしない。些も忍耐しあふてことがないんだもの。…あらまア！ ど

うしたんですよ！ どつちかゝ忍耐しなくッちやア。(ドールに)無論あん  
たよ。貴女は弱い身だからさ、女は七分の損だていふぢやアないかね？

ドール (だんく心が解けて) さ、ジャック、仲直りしようよ。お前は軍に往くんだ。  
二度と逢へるかどうか、關つたこッちやないからね。

二人抱擁する。  
給仕人の甲出る。

甲 もし、旗手のピストルさんが下へお出でなすつて、あなたにお話したい  
とおつしやつてさせていただきます。



ドール

畜生！ あの威張屋の亂暴野郎！ こゝへよこしちやアいけないよ。あんな口のわるい悪黨ッたらありやしないよ。

女主

亂暴人なら、よこしちやいけないよ。決してよこしちやいけないよ。近所近邊への聞えもあるからねえ。亂暴人は眞平だよ。一等立派なお歴々衆にも信用されてゐるわたしだからね。…扉をお閉め。…こゝへは決して亂暴人なんかア入れませんよ。亂暴人なんか入れるために、今日まで生きてたんぢやないからね。…扉を閉めとくればね。

フォル

おい〜、女主さん！ おい！

女主

まア静かにして下さいませよ。亂暴人なんかは決して入れられませんよ。

フォル

おい〜！ これさ〜！

女主

いゝえ〜、ジョンさん、お黙んなさい、いゝえ。あんたの旗手さんだつて、

亂暴者は入れられません。わたしつい此間も呼び出されて、お名代のチジツクさんにお目にかゝると、あの方がね…ついで、その、先の水曜日のことですがね…「時に、なう、クイックリー」って、あの方がさ…恰ど其時、牧師のダムさんも傍にゐなすつたツけが…「なう、クイックリー、品行の好い者だけを客にするが好い。何故といふに」とおいひなすつてね「大ぶ善くない評判があるから」って然うおいひなさるのさ。さ、何故そんなことをおいひなすつたかといふにですよ。あの方がさ、「といふのは、お前は正直な、善良な女で、世間からも好く思はれてゐる。だから、客種に注意するが好い。亂暴人や誼誼買ひなんかは決して客にしないが好い」と斯うおつしやつたのさ。だから、決していけません。さうおつしやられたのを聞きや、お前さんだつて、きつと〜有りがたいと思ひますよ。…いゝえ、決して入れません〜。



フォル 女主さん、彼れは亂暴人ぢやないよ。たか、賭博師だ、道樂は。生れ立ての小犬のやうに柔和しい男だ。バーバリー産の牝鶏にだつて向ひ得やしない、奴が羽根イおツたて、對つてつた時分にや。給仕、呼んで来てくれ。

給仕人の甲入る。

女主 道樂が土木師ですツて？ 地道な人なら介意やしませんよ、土木師さんなら介意やしませんよ。けれども亂暴人は眞平です、ふんとに。怒號されると、わたし、厭アな氣持になるのよ。ねえ、(とドールに) 觸つて見て御覽なさい、慄えてませう？ でせう、ふんとに？  
ドール 然、(と水を飲ませつ) 女主さん、全くよ。  
女主 でせう？ 然、全く、慄えてよ、白楊の葉のやうにね。亂暴人は眞平ですもの。

ピストル、旗手の制服の仕立てたばかりといふのを着て、肩章を輝かし、長劍を帯び、大氣取りで肩で風を切るやうにして出て来る。バードルフと侍童と従いて出る。

ピストル や、士爵ジョン、御機嫌よろしう！  
フォル よくやつて来たなう、旗手ピストル。一盃の酒を掲げ上げて號令を掛けるぞ。さ、其女主に射掛ける。  
ピストル はい、ちや、二つ弾で射掛けてくださいませう。  
フォル もう何度も試し濟になつてる女だ。二つ弾ぐらゐは平氣なもんだ。  
女主 いゝえ、わたし試し飲み





なんか否ですよ。だれが何とおつしやつたつて、わたし毒になるやうな飲み方はしませんのよ、いゝえ。

ピスト

ぢや、あんたい、ドロシーさん。あんたが俺の敵だ。

ドール

お前さんの敵！ わたしお前さんは大嫌ひよ、此ぼろくた野郎！ 何だ！

此素寒貧の、劣な、碌で無し、ちよろまかし野郎の、襦袢なし野郎め！

えいッ、去ッちまへ、ぼろくた野郎！ わたしア、お前の主人の嗜好品だよ。

ピスト

俺アお前さんを知つてますよ、ドロシーさん。

ドール

去ッちまへ、悪黨め、掏摸め、薄ざたない巾着切め、去ッちまへ！ さ、此酒

を誓文にして、おのれの其穢ッちい頬桁を俺の此ナイフで突通しッちまふ

よ、俺の傍へ来て商賣小刀なんか弄りやがると。去ッちまへ、此瓶詰麥酒

野郎！ 籠欄を弄る老朽手品師め！ ヘッ！ 知つてるッておいらをッ！

(冷笑的に) ほんとに、肩に章なんか付けてさ！ 大變立派よ！

ピスト  
フォル

もう堪忍が出来ん、うぬ、その襷襟を打殺してくれなけれア！

(止めて)もう止せよ、ピストル。こゝで手竝を見せるにヤ及ばんよ。それよりか早くこゝを出發れてくれ。

ピストルが擬勢して長劍をひねくるので、女主は氣を揉んで

ドールとピストルの間へ割つて入つて、いろく和める。

女主

ねえ、もし、隊長さん。後生ですから、ねえ、隊長。

ドール

隊長だつて！ やい、おのれ、穢らしい、厭アなく賭博野郎の癖に隊長

なんて呼ばれて、きまりがわるかアないの？ (フォールスタップを尻目にかけて)

わたいが隊長なら、お前を棒で以て叩きみじいてやるんだ、そんな僭上を

しやアがると。お前が隊長だつて！ 何の功でよ？ 淫賣屋で淫賣の襷

襟を引裂いた功でかい？ (女主其他が取押へて一方へ連れて退く。けれども中々黙ら

ない)。あいつが隊長だつて！ どッ畜生め！ あいつは、徹の生えた煮梅



干や乾菓子ばかり食つてやがるんだよ。隊長だつて！ あんな奴が、今に「隊長」で言葉を「行る」ツて言葉とおんなじに、可厭アな意味にしツちまふんだよ。だからさ、(とフォールスタッフを尻目に) 隊長さんたちが氣を附けなくツちや不可いんだ。

バード (此間頻りとピストルを和めてゐたが) まあさ、旗手さん、よう、まあ、下へ行きなさいよ。

フォル (女主がドールを持刺してゐるのを見て) おい、ドールちゃんや、ま、こゝへ來なよ。

ピスト (バードルフに和められて、いよく猛り立つて) うんにや、伍長、否だく。おら如何しても彼阿魔ア引裂いてくれる。復讐しなくツて如何するもんか！

侍童 (バードルフを和めつ) ねえ、下へおいでなさいよ。

ピスト 彼阿魔めが地獄へ落ちやがるのを見なくツちやおかねえ。閻羅王のおツ

そろしい焦熱地獄の、あの火の池中へおツこちやがるのを見なくツちやおかねえ。 綸も釣もしつかり！ 畜生め、おのれ！ 悪黨め、おのれ！ ハイメンさんがお在なさるぞ！ (と半分ほど劍を抜きかける)。

女主 (びっくりして取りすがつて) まあく、お隊長さんのビーズルさん、まあさく。そんなに御ぢツ服なさらないで、もう晩ござんすからね。後生一生でござんすから。

ピスト (取押へ手が多くなるほど、氣躰がますます高くなる) こいつア面白いや、成程！ 何だと、駄馬や一口にたツた三十里しか歩き得ねえやうな食ひ倒れの亞細亞馬をシーザーやカンニバル(ハンニバル)やトロイの希臘豪傑なんかと一しよくたにするのか？ そんなことをする位なら(芝居の荒事師といふ見得で、劇白口調で) どのつち此奴も黒闇地獄へ抛り込んぢまへ！ 蒼天を咆吼かせろ、えゝ！ やい、取るにも足んねえことで、喧嘩しようてののか？



女王 ふんとにまア、隊長さん、何てま、おツそろしい酷いことを！

バード まア、お歸んなさいよ、旗手さん、喧嘩になるといけねえから。

ピスト 人間は犬ぢやアねえぞウ！ 金貨と針とは異ふぞウ！ ハイレンさんがお在なざるのを知らねえのか、こらア！

と劍の柵を叩く。女王はハイレンを女の名だと思つて

女王 いゝえ、隊長さん、そんな方アおやしませんよ爰にや。はれまア！ はれ

まア！ 何に、その方を不可いッていふンぢやありませんよ。まアさく。

ピスト (又劇白口調で) ぢや、たんと食べてお肥りなさい、こちのカリボリスの姫御

前！……さ、さ、酒だく。われ薄運にして虜とはなつたれども、未來の

希望無きにしもあらずッ！ 一齊發射なんぞを恐れるもんかい！ 惡魔

が火イ吹いたつて、介意ふもんかい！ さ、酒だく。情婦、(と劍と脱しつこ

ま、そこに臥てろ。(と劍を下において) え、もうこれで段落なのか？ もう此

上の云々は無えのか？

フォル おい、ピストル、もう静かにしようぜ。

ピスト (席に着いて) 隊長さん、あなたの拳骨をキッスするよ。ねえ、北斗七星を夜

通し一しよに詠めたこともあつたらう？

ドール 後生、そいつを階子の下へ突落しておやりよ。もう、忍耐が出来ない

のよわたし、其大馬鹿野郎！

ピスト 階子の下へ突き落す！ おれが知らねえと思つてるのか、此駄馬め！

フォル (腹を立つて) 抛り出しッちまへ、バードルフ、そいつを、玉ころがしの志のや

うに。つまんねえことばかり吐しやアがるんなら、つまん出しッちまへ

そいつを。

バード さ、さ、下へ行きなさい、下へ。

ピスト (フォールスタッフを睨んで) 何だと！ 切合はうッてののか？ 血イ出さうッての





か？… (と劍を握んで) ちや、死の神よ、(又劇氣取になつて、見得を切つて) いざ來つて予を寢しつけてくれ、此淺ましい餘生を縮めてくれ！ さ、さ、例の三姉妹の繰る命の絲を、無慚な、むごたらしい、無数の創口で以て絶切つてくれ！ さ、さ、ちよん切つてくれ！

女王  
まア、ふんとに、大變なことに  
なツちまつた！

フォル  
(突立ち立つて、侍童に) 小僧、おれの

劍をよこせ。

ドール  
(止めて) ジャック、お止し、後生だから、お抜きでない。  
フォル  
(振拂つて、劍を抜いて) え、下へ行きアがれ。

とピストルに突いてかゝる。ピストルも抜き合せて一寸立廻りになりかける。とバードルフと侍童とで遮二無二ピストルを階下へ逐ひ落しつゝ入る。其間女王はうるたへ騒ぐことよろしくある。

女王  
ま、何て騒ぎだらう！ もうくわたくし懲りくしツちまつた。こんな怖い目や怖しい目に逢つちや此商賣は行ききれやしない。此鹽梅ぢやア今に人殺し騒ぎだよ。…あゝ！ あゝ！ (フォールスタッフに) ま、其拔劍をおしまひなさいよ、拔劍を。

ドール  
(フォールスタッフを抱きとめて) よう、ジャック、おしづまりよ。あいつアもう去ッ



ちまつたよ。ほんとにお前さんは、碌でなしの、(しなだれかゝつて)小すけの、勇敢い〜、どッ畜生だことよ。(と甘たれる)。

女主 (フォールスタッフに) 股ンところを突通されたんぢやなくって? わたしあの人があんたの下ッ肚を、すぶりツとやつたかと思つて、慄然としてよ。

パードルフ又出る。

フォール 外へ叩き出したか?

パード はい。野郎くらひ酔つてるんです。あんたに肩ンところを突かれやがつたんです。

フォール (大得意で) 野郎め! おれに手向ひしようなんて!

ドール (尙しなだれて) まア、ほんとに可愛い、お小ぢやんの悪黨野郎や! (と首ツ玉にがちり附くとて) あらま、此お猿さんは、汗びツしよりだわ! さ、顔オ拭いてあげようよ。…よ、さ、此大切肉さんや。…あ、悪黨野郎! ほんとに

フォール (いよく得意になつて) 悪黨野郎め! あの野郎、今に毛布に包んで抛り出してくれる。  
可愛いつたらないわよ。お前はトロイのヘクターのやうに勇敢いわねえ。アガメンノンの五人分よ。あの、そら、九人の豪傑衆よりも十倍も強いわよ。あゝ! 此畜生野郎や!  
あ、悪黨野郎め! あの野郎、今に毛布に包んで抛り出してくれる。

囃子方の樂人ら出る。

侍童 樂人が來ました。

フォール 始めさせろ。…はじめてくれ。…あの口ばかりの弱蟲野郎め! おれが一睨みしたら、水銀が走るやうに逃げて行きやアがつた。

ドール ほんとよ、おのれツてツてお前が立つた時ね、お堂が動き出したやうだつたわ。(尙からみ附いてゐて) 此、ま、けちいな、ちツちやい、肥ツちよのお豚ぢやんや、幾歳になつたら、晝間の叩きツくらや夜中の突ツくらを止めて、天堂へ



行く支度をするの！ 何時その疵だらけの償補を始めるの？

王世子ヘンリーとポインストが給仕人に假装して、此時、フォールスタ  
ツの背後へ現れる。

フォル 止せよ、ドール！ 縁起がわりいや。 死の神か何ぞのやうに、死ぬ時の事

なんか言ふなよ。

ドール ねえ、あの王子さんて人はどんな人なの？

フォル 薄のろな青二才だ。 あれで麵麩を上手にでも切ることが出来たら、臺所

で使ふぐらゐの役にやア立つだらうけれど。

ドール ポインストて人は洒落が巧いつていふぢやなくツて？

フォル あいつが洒落が巧い？ 大べらばうめ！ 奴の洒落と来ちやアチュークス

ベリーの芥子で格だ。 あいつの頭から洒落が出るやうなら、才槌からも

出らアな。

ドール ぢや、どういふ理由で、王子さんがあの人を可愛がるんだらう？

フォル そりや何だ、脚が、二人とも、同じやうに長いからだ。 それから、二人とも、

鐵環を投げて遊ぶこゝが上手だ。 それから、二人とも、海鰻や茴香を喰ふ、

そら、あの、火の附いてる蠟燭を火酒の中へ容れたまゝで飲みツ競をする、

子供と一しよになつて上下戯に乗ツかる、疊椅子の跳越しツ競をする、様

子よく誓言立をやらかす、長靴を、脚の招牌で、もあるやうに、具合よく穿

く。 それからどんななお上品な事を言つたつて、平氣の平左だ。 それから、

奴アよく跳廻らア、智慧は鈍いが身體だけは達者だ、それを王子が認めてる

んだ。 といふのは、王子自身が同じくだからだ。 髪の毛一筋で以て、二

人の重さを量る秤皿は顛覆らうてんだ。

王子 (ポインストに傍白) あの車の穀野郎の耳ツ朶をぶツたぎつてやりたい！

ポイン (王子に傍白) ぶんなぐつてくれませう。



王子 あれ見な、あの皺くちや爺め、まるで鸚鵡が頭を引掻くやうに、あの女に禿頭を引掻廻されてゐやがる。

ポイン お役にや立たなくなつて癖に、情慾だけが残つてるの？ 不思議ですな？  
（ドールに抱擁されてゐて）キッスしてくれ、ドール。

王子 （傍白）翁星と美女星が今年は一しよに出るんだな！ これに就いて曆はどういふ豫言をしてるか知らん？

ポイン （傍白）御覽なさい、（とバードルフが女主と戯けてゐるの指さして）あの猛火星めが、うぬが主人の古日記（女主を見やつて）と巫山戯いてやがるのを。

フォル （ドールに）嬉しがらせをいふぜ。

ドール ほんとよ、誓文よ。

フォル もう駄目だ、齡を取つたから。

ドール わたい、下等な青二才なんかよりやア、ずつとくお前が好きよ。

フォル 袴地は何にする？ 火曜日になりや金が手に入るんだ。帽子は明日買つてやるよ。…さ、さ、何か面白い唄を！ もう大ぶ晩いや。寝ようぜ。

ドール な、忘れてくれるな、おれが居なくなつたからッて。

フォル お前がそんなこと言ふと、わたい泣きたくなつてよ。お前の不在に、綺麗に着飾つてたなんてことがあつたと言つて御覽。…いゝわ、今に分るわよ。

フォル おい、フランシス、酒だ。

王子 へい、只今、々々

と、二人とも、ずつと前へ出る。フォールスタッフ二人を見て驚く。

フォル おやッ！ 王のお妾腹の息子どんぢやアないか？…さうして汝は其舎弟のポインスぢやアねえか？

王子 罪惡づくめの地球玉の化物め、何て情けない生活をしてるんだ？



フォル お前の生活よりや優した。おれは紳士だが、お前は給仕人だ、小使だ。  
王子 全くだ。だから汝をこづかうといふのだ。

と假装をかなぐりすてる。フォールスタッフ 起上る。

女主 (はじめて気が附いて) おやくく、御機嫌さまよろしう！ ふんとにまア、  
ようまア此ロンドンへ。……ま、ふんとにお達者様で以て、結構でいらッし  
やいますこと！ ま、ウエールスから入らッしやいましたのですの？

フォル おのれ、碌でなしの半氣ちがひの(と強さうに言ひかけたが急に悄氣れて) 王子様め  
(と言ひつゝ傍らのドールの肩へ手を置いて) 此腐つた血と肉とを誓言に掛けまして、  
へい、ようこそお出でなさいました。(と辭儀をする)。

ドール (憤れて) 何だッて？ 此肥満漢の馬鹿ッ！ 意氣地なしッ！

ポイン (王子に) 御前、早くなさらんと、奴め、又巧く瞞着して、洒落れのめしてしま  
ひますせ。

王子 (フォールスタッフに) やい、碌でなしの蠟燭庫め、今現に、爰でおれの事を何と  
いつた、その立派な、貞淑な貴婦人の前下？

女主 ふんとに、ようおつしやつて下さいました！ 全くあの婦人は然うなんで  
すのよ、正直。

フォル 聽いてたのかい？

王子 聽いてた。汝はおれのあることを知つて、悪口したに相違ない。あの  
ガッヅヒルで突走つた時にも、本能的に知つてゐたてんだから。きッと故  
ツと言やがつたんだ。

フォル と、と、とんでもないこツた。聽いてゐようとは思はなかつたんだ。

王子 故ツと悪口したと白状させずにやおかない、其上で爲様があるんだから。

フォル ハルや、決して悪口なんかしやアしないよ。

王子 なに、悪口はしない？ 臺所で麵麩を切るぐらゐは如何とやら斯うとやら



と言つたぢやないか？

フォル そりや悪口ぢやアないよ。

ポイン 悪口ぢやない？

フォル 悪口ぢやないよ、ネッド、決して。悪口ぢやないよ。わざと善く言はね

えやうにしたのは、悪黨女なんかに惚れさせちや大變だと思つたからよ。

つまり、注意深い親友の任を盡したんだ、忠義な家來の役目を。お父さん

に感謝されて當然なんだ。悪口ぢやアないよ、ハル。…決して、悪口ぢ

やないや、ネッド。…いんにや、決して、氣もねえこつた。

王子

如是貞淑な(とドールを見やつて)貴婦人を侮辱してまでも、吾々と仲直りをし

ようてのは、正に、明かに、全くの純粹の臆病根性の然らしめる所なんだ。

此婦人が如何して悪黨なのだい？ こゝにゐる此女主が悪黨かい？ え、

汝の此侍童が？ 或は此正直なバードルフが悪黨なのかい？ 熱誠が、あ

の通り、鼻の尖で燃えてるぢやないか？

ポイン さ、返答しろ、こら、枯れかけた楡の大木野郎！

フォル バードルフはね、悪魔が既うちやんと符號を附けつちまつたよ。奴の面

ア悪魔王の臺所なんだ、麴の蟲を炙り殺すだけの場所だ。侍童の方は、あ

りや善い天使も目を掛けてゐたんだが、もう札が悪魔の方へ落ちた。

王子 女連は？

フォル 一人の方は、とうに地獄へ墮ちつちまつて、今焼かれてる最中だ。もう一

人の方は、おれに金を貸してる。其故で、奴も或は地獄へ墮ちるのかも知

れん。

女主 (憤つて)なに、そんなことがあるもんかね！

フォル 成程、さうかも知れん。もう皆な濟んだらうなア。だが、まだ外にある

ぞ、宗規に背いて、禁肉祭中に肉を食はせたつて罪があるぞ。やッぱり吠



えさせられるんだ。

女宝

食物屋は皆な然うするぢやないかね？

長い禁肉祭の間に、羊肉の一斤や

二斤ぐらゐが何だい？

王子

ねえ、貴婦人さん！

ドール

何でございますの、殿下？

フォル

臀下だか、臍下だか、へッ少々御謀叛がお崩し遊ばしたとおつしやるだらう。

奥にて屏を叩く音。

女宝

だれだか酷く叩いてるよ！……見といで、フランシス。

ビートー出る。

王子

ビートー、どうしたい！ 何か起つたかい！

ビート

お父さまの王陛下がウエストミンスターにお着になりましたところ、疲れ果てた早飛脚が二十人も北から参りました。それから、手前がこッちへ

やつて参りますと、途中で十二人ほどの隊長連に逢ひました、皆な帽子もかぶらないで、汗を垂して、酒店がありさへすりや立寄つて「士爵ジョン・フォールスタッフは？」と問ね廻つてゐました。

王子

おい、ポインズ、斯ういふ大切な時間をくだらん馬鹿遊びで消費してゐちや濟まないよ、騒動の大あらしが、眞黒な毒氣を背負つて吹嵐して来る南風のやうに、吾々の素頭の上へ、今にもおッかぶさつて来ようて時に。劍と外套をくれ。……フォールスタッフ、さよなら。

王世子ヘンリーとポインズとビートーとバードルフと入る。

フォル

さ、これからが夜の味の一等旨いとこなんだ、けれどもそれを摘まねえで以て御出立だ。……(又奥にて叩く音)又叩いてら。……

バードルフ又出る。

どうしたんだ！ 何か起つたか？



バード　すぐに朝廷へお出でなさいッてね、十二人も隊長たちがやつて来て、あんなを待つてまき。

フォル　(侍童に)おい、囃子方に拂つてやんなよ。…女主さん、さよなら。…さやうなら、ドール。どうだ、流行兒てものは此通りだ。役に立たん奴らはぐうぐう眠てるんが出来るんだが、働き手て者は呼出され通した。あばよ、御機嫌よう。大急ぎで直出掛けるやうでなかつたら、又逢はうぜ。物が言へないわ。胸が張裂けさうなんだから。…ねえ、ジャックちゃんや身體を大事にしとくれよ。

と鼻を鳴らしつゝ、相抱擁する。

フォル

さよなら、さよなら。

フォルスタッフとバードルフと入る。

女主

ちや、御機嫌よう。お前さんとわたしは、これで此夏が来ると、二十九年

の馴染よ。けどもお前さんのやうな正直な、眞實な…(とつくづく見送つて)ちや、さやうなら。

バード

(内から大きな聲で)おゝい、チャシートさん!

女主

なアに?

バード

(内から)チャシートさんに、旦那が。

女主

おゝ、ドールちゃんや、早くよ、駆けといでよ。(ドール泣顔をかきつゝやつて行く)よ、早くおいでといふにねえ。

入る。

\* \* \* \* \*



第三幕

第一場

ウエストミンスター 王宮。

王、寝衣のまゝにて、一侍童を伴れて出る。まだ夜中の體。

王

サリー伯とウォリック伯とを呼んで来い。さうして来る前に、此書面を一讀して、とくと考へて參るやうに然ういつてくれ。急いで往け。……  
(童入る。王は太息して) 人民共の中の最も困窮な者とても、現に今、何千人とな  
く安眠を貪つてゐるであらうに! ……あゝ、快い眠りこそは「自然」が人間

に供してくれる柔しい、なづかしい看護婦であるのに、どうして予が汝をば威嚇しツちまつたのだから、汝はもう些も予の目蓋を壓へてはくれん、予の感覺を氣持のよい忘却に漬してはくれん。睡眠よ、どうして汝は煙突もない農夫小屋の藁蒲團の中へばかり入り込むのだ、ぶんぶん鳴き立てる夜の蟲を苦にもしないので? 天下の主の高貴を極めた、空燒の香りの





高い帳臺では、妙なる音楽の音にも眠入らん癖に。お、汝、鈍感の神よ、  
 どうして汝は穢らはしい寢床の中で、下司とは善く眠る癖に、國王の帳臺  
 をば不寐番の番小番や火の見櫓のやうにしてしまふのだ？ 汝はあの眩  
 暈く高い帆柱に攀ちてゐる船乗の小僧の目をも閉ぢさせるぢやないか？  
 雲まで達く怖しい大高潮を、死人も爲に目を覺しさうな大音響を發せしめ  
 て、巻返らせしくしても、それが却つて搖籃の役をして、小僧は快げに眠て  
 ゐるぢやないか？ お、依怙最肩な睡眠よ、そんな大荒れの晩にさへ、船  
 乗の小僧には安眠を與へながら、静かな、長閑な真夜中に、ありとある安眠  
 の法や手段を講じ盡した國王にはそれを拒むのか？ ぢや、幸福な賤民よ、  
 眠ろく！ 王冠を戴く頭は、曾ぞ安らかに眠るといふことがない！

ウオーリックとサリーと出る。

ウオー いやが上にめでたき御朝を重ねさせられますやう！

王 もう朝か？

ウオー もう一時過ぎでございます。

王 では、兩卿とも、お早うござる。送つてあげた書面を讀んで下すつた  
 か？

ウオー 拜讀いたしました。

王 ぢや我王國が目下重體だといふことはお分りであらう。わるい病ひが、  
 もう既にどのくらゐ募つて、而も心臓にまで危険を及ぼしてゐるといふこ  
 とは、お分りだらう。

ウオー いや、まだ、ほんの聊か不例といふ程度でございますから、治療法宜しきを  
 得ますれば、回復は大丈夫と心得ます。ノオサンバランド卿の如きは、た  
 やすく熱を醒すことが出来ませう。

王 お、神よ！ 宿命の書が豫め讀破されるものであるなら！ さうして山



が平地となつたり、大陸が、其鞏固なのに飽き果て、溶けて海になつたりする有爲轉變が豫知されるものなら！ 或は海が海神の譬受けとしては廣過ぎる程の砂地を残して退却することもある。あゝ、どれほど偶然の爲に弄ばれるやら、どれほど様々な味の飲料を變化めが飲ませるやら！ おゝそれらが悉く先見されたなら、最も幸福であつた青年も、來し方の免れた危さを見返ると同時に、未來の艱難が見透かせたなら、おそらく宿命の書を閉ぢて、死なうと觀念するでもあらう。……まだ十年とは經たない、リチャードとノオサンブランドとが無二の親友で、飲食を共にしてゐたのは。然るに、二年の後には、相戦つた。まだやつと八年にしかならない、あのパーシーが予の第一の親友で、まるで兄弟のやうに、予の爲に身を獻じて働いてくれたのは。現に、予の爲に、さうだ、予の爲に、現にあのリチャードを面責した。……あの時、傍にゐたのは、足下たちの中の孰れだッけ

か？……(ウオーリックに) 足下だらう、ネギル、たしか？……あのリチャードが、目に涙を一ぱい溜めて、ノオサンブランドに罵倒されながら、斯ういふことを言つた時に。それは今は適中した豫言となつたが、「從弟のボリンググブロックを王位に登らせる階子の役を勤めるノオサンブランドよ」と……予は其頃、無論、そんな野心はなかつた、予が王位に押し上げられたのは、全く國家の必要上から起つたことだ。……それからリチャードは「時が今に來るだらう、穢い罪惡が段々募つて、竟にそれが腐爛して潰裂するに至る時が來るだらう」と言つて、尙も言葉をつゞけて、今日の此情態や吾々の仲たがひの事までも豫言したッけが。

ウオー

たれしも、其一生中に、多少過去世の特質を表現する或事件を記憶してをるものでございます。それをとくと觀察しますれば、將來の趨勢を、まだ種子が土に埋れて辛と芽を出しました計りなのをほゞ豫言することが出來



王  
 るものでございます。それらを「時」が温めて孵化せて、雛にします。リ  
 チャード王の如きも、右の必然の様式に従つて、同王に對し不信不義であつ  
 たノオサンブランドである以上、即ち種が同じである以上、早晚、更に大き  
 な不信不義と生長するであらうが、外に畑地とてもないのだから、必ず陛下  
 の上へ掩ひかぶさるだらう、と圖星を言ひ中てられたのでございませう。  
 では、彼等の叛逆は必然の結果なんだね？ ちや、吾々も必然の、止むを得  
 ないことゝして、之に當る策を講じよう。而うしてそれが既に焦眉の必  
 迫となつてゐる。……大監督とノオサンブランドの兵は一萬五千強といふ  
 が、然うかね？

ウオー  
 そんな筈はありません。とかく風説は、反響のやうに、怖れられてゐる兵  
 數を倍に傳へます。……どうか陛下には御就眠遊ばしませ。大丈夫、既に  
 御派遣になりました諸軍隊が、容易に大功を收めて、凱旋するでございま

王  
 せう。更にお喜び遊ばすべきことは、グレンダワー死去の知らせでござ  
 います。確かな手から傳聞りました。陛下は、此二週間、御不例であら  
 せられたのですから、斯んなに早くから御起床遊ばしては、必ず御病體の  
 お障りとなりませう。  
 その忠告に従ひませう。兩卿、此内証が治まつたら、一しよに聖地へ行く  
 ことにしよう。

入る。



第二場 グロースターシャー判事シャロウの宅の前。

地方の老判事シャロウ(假譯して淺井知永)と同僚サイレンス(朽輪重)と行逢ふ。補充新募兵モールデー(敵野集太)、同シャドリ(影星道善)、同ウォート(疣野陽)、同フィーブル(弱蟲脆)、同ブルカーフ(當歳牛作)及び下僕ら従いて出る。

シャロウ さ、さ、さ、さ。 さ、お手を、お手を。 大層早くお出掛けでしたねえ！ 時

サイレ や、お早う、シャロウさん。

シャロウ 時に、あなたの仲よしの、あの従弟はどうしてゐます？ それからあの、あなたの、わたしの女分のあの別品さんのエレンは、わたしが名を付けてあ

げたあのエレンちゃんは？

サイレ なんの、ありや鴉娘ですよ、シャロウさん！

シャロウ ねえ、あの従弟のウィリヤムは、否應なしに、すっぱらしい學者になつたでござせうねえ。 まだオクスフォードにゐますか？

サイ はい、どうも費用がかゝつてねえ。

シャロウ ちやアもう直に法律院へ入らんけりやならんですな？ 我輩も嘗てクレメント院にゐましたッけ、今でも彼處の者は「亂暴シャロウ」ッて噂をしてゐるですよ。

サイ 元氣者のシャロウともいはれてましたらう、あの時分。

シャロウ いろんな異名を附けられましたよ。 さうして、實際、いろんな事をやらかしたもんだ、おい來たといふ調子でね。 我輩と一しよにゐたのは、スタンフォードシャーの、あの小男のジョン・ドイトね、それから眞黒なジョールジ。



バーンスね、それからフランシス・ピックボーン、それからウィル・スキール、あのコツヤードから来てゐた男でさ。ロンドン中の法律院を捜したつて、あの四人のやうな躁狂者は又とは居ませんや。ジャック・フォールスタッフも、あの今、士爵の、彼れも居ましたよ、あの時分は小僧でね、ノオフォルク公トマス・モウブレーさんのお小姓でしたよ。

サイレ その士爵ジョンが、兵隊の事について、今日こゝへ來ますよ。

シヤロ そゝ、その士爵ジョンですよ、その。我輩は、院の表門のところでね。スコーガンの頭を奴が割つたのを見たですよ、まだやツと此れツくらゐの（と手眞似をして）小僧ツ子の時分にね。其同じ日に、我輩は、グレース院の後ろで水菓子屋のサムソン・ストックフィッシュと撲り合ひをしましたッけ。やれやれ、随分亂暴をしたもんだッた！ もう大ぶ、むかし馴染は死んじまひましたよ！

サイレ 今に此方らとても皆な逝くのです。

シヤロ その通り、その通り。全く、全く。聖歌作者が言つてゐる通り、死は衆のまぬかれざる所ですよ。皆な死ぬんです。好い小牛一對どのくらゐでしたねえ、スタンフォードで？

サイレ つい、市へは往きませんかつた。

シヤロ 到底死は免れませんよ。あんたの町のダブル老人はまだ生きてますか？

サイレ 死にましたよ。

シヤロ やれ／＼、死にましたか！ なかく／＼弓をよく引きましたッけ。死にましたかい！ 弓が上手でしたがなア。ジョン・オ・瘦人さんが大層可愛がつて、あの男ならといッて、大金を賭けなされるのが定例でした。死にましたかい！ 二百四十ヤード離れて星を射中てたもんでしたがねえ。二百九十ヤードも向うへ大鎗箭を飛ばしたんですからねえ、實に好い心持でし



たよ、見てゐて。牝羊は二十頭今幾らですか？

サイレ 物次第です。良い牝羊だと二十頭十ポンドぐらゐでせう。

シヤロ ダブル老人死にましたかい？

サイレ (向うを見て) あそこへ士爵ジョン・フォールスタッフの家來らしいのが二人來ました。

バードルフと別に一人出る。

バード お早うございます。失禮ですが、どちらが判事のシャロウさんですか？

シヤロ 我輩がロバート・シャロウでございます。此州の田舎武士でござりして、陛下の治

安裁判官を拜承つてをる一人でございます。何の御用ですかな？

バード え、手前の隊長が宜しくと申されます。手前の隊長の士爵ジョン・フォー

ルスタッフは逞しい人で以て、非常に勇敢な將校でございます。

シヤロ 御挨拶かたじけない。立派な擊劍家でござらッしつたのを存じてゐるで

すよ。士爵はますます御健勝でござるか？ 失禮ですが、細君は、奥さん

は如何お暮しで？

バード 失禮ですが、軍人は嬪なんか有ッたらん方が便益的です。

シヤロ 成程、いかさま。成程、これは御尤もだ。有ッたらん方が便益的！ 成

程、こりや御尤もだ。巧妙な新語は結構でござすよ、全く。便益的！

便利、便宜なぞから來たのですな。結構。好い成語でござす。

バード (憤として) 失禮ですが、確かに其お言葉は承はりましたぞ。成語だッて

お言ひなさるかね？ 憚ながら、成語とかア心得てをらんがね、此劍か

けて、俺は、たしかにそれが軍人らしい言葉だてことを主張します。たし

かに號令的の言葉です。便益的、てのは、所謂その便益的になつてゐるのを

いふです。すなはち、その、便益的だらうと思はれてゐる場合のことをいふ

です、それは非常に上等なことであります。



シヤロ

成程、全く。……

フォール スタッフ出る。

や、あそこへ士爵ジョンが来られた。……(出迎へて) 手をお貸し下さい、どうか閣下のお手をお貸し下さい。先づ以て御健勝らしく、いかにも御機嫌の體で。ようこそお越しでござした。

フォール

あなたにもお達者で、ロバート・シャロウさん、おめでたう！……(サイレンスを見て) シュニアカードさんでしたかな？

シヤロ

いゝや、士爵ジョン。従弟のサイレンスです、手前の同僚でござす。

フォール

サイレンスさん、あなたは實に平和判事には持つて来いといふお人だ。

サイレ

閣下にはようこそ。

フォール

(暑がつて汗を拭きつゝ) こりやたまらん、暑いぢやありませんか？……合格の者を六人程御準備下すつたか？

シヤロ  
フォール

はい、集めとききました。ま、お着席

シヤロ

一見したいものです。

シヤロ

名簿を何處へやつたッけか？ おや、名簿は？ 名簿は？ かうつと、か

うつと、かうつと。(ヤツと名簿を捜しあて) そ、そ、そ、そ、そ。はい、はい、さうでござす。……ラルフ・モールデー！……呼んだら前へ出るやうに。めいゝくに、呼んだらば出るやうに。……かうつと。モールデーは何處にをる？

モール

こゝにをります。

シヤロ

士爵ジョン、いかゞで？ 手足のしツかりした男でござす。若くて、壯健

フォール

で、友達もようござす。

モール

汝はモールデー(敵野軍太)といふのか？

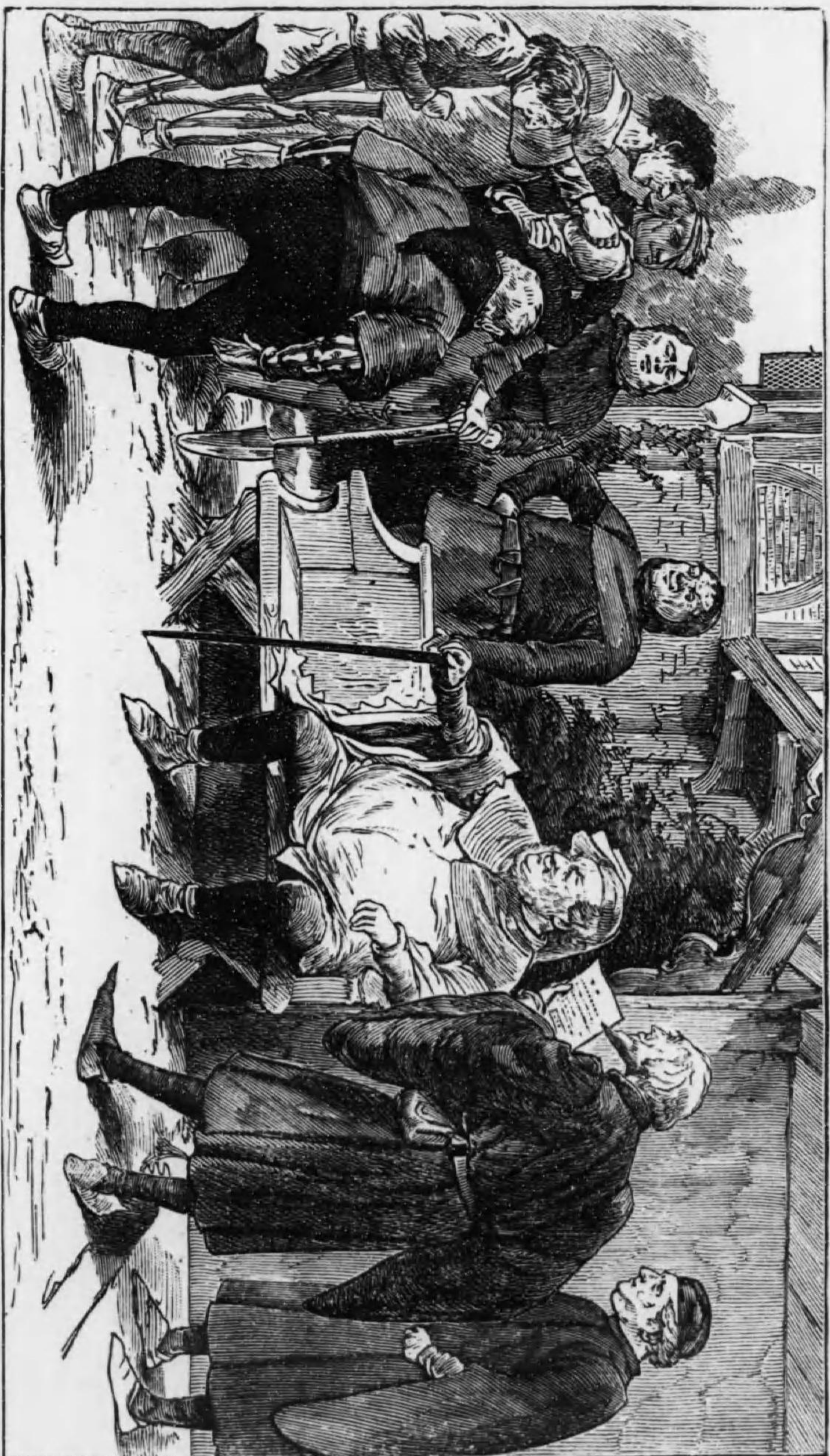
モール

へい、さやうでございます。









シヤロ お氣に入りましたかな？

フォル 陰影は兎に角夏向ですから、突一突いときなさい、召集名簿にヤ幾らも影坊師を並べておくのが定例ですから。

シヤロ (又名簿を見て) トマス・ウオート(疣野)！

フォル 何處にゐる？

ウオー こゝにをります。

これは瘦脚の、疣よろしくの小男である。

フォル お前はウオート(疣野)といふのか？

ウオー さやうでございます。

フォル 疣にしても、大分むさくろしい方だなう。

シヤロ 突一突いときませうか？

フォル それには及びませんよ。御覽なさい、着物を負ひ上げて、胴を二本針で突



通してゐるといふ格好の男でさ。此上突一突くのは餘計です。

シャロ は、は、は、は！ 巧いもんでござすねえ、巧いもんで。よう／＼！……（と

又名簿を見て）フランシス・フィーブル（弱蟲脆）！

フィー こゝにをります。

フォル フィーブル（弱蟲）、汝の商賣は？

フィー 御婦人向の裁縫師でございます。

シャロ 突一突いときませうかな？

フォル お附けなさい。だが、こいつが若し男子向の裁縫師であつたら、逆に貴下

を突衝いたかも知れんよ。……汝は敵の陣へ切込むことが出来るか？ 平生

婦人の下袴へ穴を拵へるやうに？

フィー 出来るだけはやりませうですが、それ以上は御無理でございます。

フォル 感心々々！ 勇敢な弱蟲！ 汝は定めし怒れる鳩、英邁なる鼯鼠のやうに

強いだらうなア。……シャロウさん、此婦人向の裁縫師を突一突いときなさい。ずぶりツとやつといて下さい。

フィー どうか、あの、ウオート（疣野）をば往かせていたゞきたいものですが。

フォル 汝が男子向の裁縫師だとよかつたになア。さうだと、汝に奴を仕立直さ

せる、さうすりや、往かせることが出来たらうに。……あの男は只の卒なん

かにヤされんわい。な、そら、「疣のお伴は幾らも／＼」といふだらう。

奴はさういふ大將株だ。な、それでいゝだらう、猛烈なる弱蟲

フィー へい、よろしうございます。

フォル 御苦勞だつた、弱蟲。……次はだれです？

シャロ 牧が原のピーター・ブルカーフ（當歳牛作）！

フォル で、そのブルカーフといふ男は？

ブルカ は、こゝにをるでがす。



フォル 逞しい男だ。…ねえ、牛作をうんと突一突いといて下さいよ、唸り出すほど。

ブルカ はアレ、どうすべい！ もうし、隊長さまア…

フォル おや、もう唸り出すのか？ まだ突一突きもしないのに。

ブルカ はれ、旦那ア！ おれ病人でござりますだアから。

フォル どういふ病氣だ？

ブルカ 厭アな風邪がすよ、へい、咳イとまするで、これ、おれ、王さまのお即位

日の日に、お祝ひ鐘鳴らす役勤めたで、それで以て罷れました、へい。

フォル おや、外套を着せて出陣させる。風邪なんか逐拂つてやるよ。さうして

特に汝の友達に命じて、汝の爲に鐘を鳴らさせることにする。…これッ  
きりですかね？

シヤロ 御指定よりも二人多うござす。四人といふお沙汰でござした。では、ど

うか彼方でお食事を。

フォル おや、御一しよに一盃やりませう、迎も食事をしてゐる暇はありませんが。

シヤロ ウッさん、實際愉快ですよ、お目にかゝつて。

お、士爵ジョン、まだ御記憶でござすか、あのそれ、セント・ジョールジの原  
の風車で一晩泊つたことを。

フォル もうあの話は御免、御免、シヤロウさん、あの話は。

シヤロ や！ ありやア面白うござした。時に、ジェーン・ナイトヲオクはまだ達

者でござすか？

フォル 達者ですよ。

シヤロ 彼女ア我輩が大嫌ひの女でござして。

フォル さやう〜。常住「わたしシヤロウさんは大嫌ひよ」といふのが癖でね。

シヤロ 實際、彼女を折々火のやうに怒らせたものでござした。あの時分は別品



でしたッけ。奴相替らずでござるすか？

フォル 齢を取りましたよ、齢を。

シヤロ いや、さうもござせう。これア止むを得ない。きつと好いお婆アさんだ。

まだ我輩がクレメント院へ入らん前に、もうあのナイトヲオクの爺さんと何して、あのロビンを生んでゐたんですからなア。

サイレ ありやもう五十五年前です。

シヤロ や、サイレンス、此士爵さんや我輩の見聞したとを、足下に見聞させたかつ

たよ！ や、士爵ジョン、實際でござせう？ え？

フォル お互ひに真夜中の鐘で奴を幾度も〜聞いたッけねえ。

シヤロ 全く、全く、全く。實際、全く、其通り。「エヘン！ はじまりッ！」ての

が何時も號令詞でね。…さ食事にしませう。…さ、さ、さ、食事に。…ねえどうもあの時分の事を思ふと！…さ、どうぞ、さ、さ。

フォルスタッフを案内して判事シヤロウ及びサイレンス入る。

ブルカ

(バードルフの前へ進んで、ベ〜〜辭儀をして)骨長(伍長)さんのバードルフの旦那、おらの身方になつて下せいまし。この佛蘭西金貨でお前さまに銀貨の四十志分だけ納めますだアから。ふんとに俺首縊められたはうが優しだア、軍に行く位なら。けんど俺ア介意はねえ。けんど、その、どうも俺氣が向かねえからねえ、自分としちや村にゐてえだからねえ。で無きや介意やしねえだけんど、自分一人のことアどうなつてもえいだけんど。(煙食に)駄目だ。退つてろ。



ブルカ！フ帽々と引

バード

(煙食に)駄目だ。退つてろ。



退る。モールデーが代つて前へ進んで、同じくベニコく、辭儀をして

モール ねえ、もし、伍長さんの隊長さんの旦那、宅の婆アのために、おれの身方になつて下さいまし。おれがゐなくなると、彼女の爲に仕事爲る者が一人もなくなつちまふでございますだ。もう齡イ取つてますだから、どう爲ることも出来ましねえ。四十志獻げますだアから。

バード 駄目だ。引退んでろ。

モールデー退る。此様子を見てゐた名前に似ぬファイアブル(弱蟲)が氣煽を揚げる。

ファイ なるアに、かまふもんかね。人間は一度しか死ぬもんぢやアねえ。命は神さまからの借物だ。卑劣な根性骨持つのア可厭だ。死ぬのが運命なら、それもよし。で無さや、それもよしだ。王さまの爲に死んで、勿體ない

て人間はありやしねえや。 とうなとなつてくれ、今年死にや來年は死にやアしねえや。

バード 偉い。お前は立派な男だ。

ファイ 卑劣な根性は持ちたくねえや。

フォールスタッフと判事ら又出る。

フォール さ、どれくを伴れてくかね?

シヤロ どれなりとも、四名だけ。

バード もし、ちよいと。……(とフォールスタッフを一隅へ引張つて往つて)モールデーとブルカーフを赦すことにしますと、三ポンドになりますぜ。

フォール えいッ! (と大きく叱つておいて)うむ。(と小聲で頻りにうなづく)。

シヤロ さ、士爵ジョン、どの四人をばお探りになりますかね?

フォール あんた選んで下さい。



シヤロ

それぢやア、モールデイーに、ブルカーフに、フィープルに、シャドウを。

フォル

モールデイーとブルカーフ。…モールデイー、其方は宅に留つてろ、免役に  
なツちまふまで。…ブルカーフ、其方はまだ些と早い。もつと大きくな  
れ。二人とも用はない。

シヤロ

士爵ジョン、士爵ジョン、そりや御損でござすよ。其二人は一等立派でござ  
す。最上等なのを御採用になるやうにいたしたいでござす。

フォル

シヤロウさん、わたしに兵員の選擇法を指圖なさらうてんですか？ 手と  
か、足とか、筋肉とか、體格とか、圖體とか、大柄とかいふやうなとはどうで  
もいゝのですぞ！ 精神が第一ですよ、シヤロウさん。…このウォートで  
男を御覽なさい。むさくろしい様子をしてまさ。けれどもあれで白鐵  
鍛冶の鐵槌そこのけの機敏さで弾込もすれば射出もすりや追撃もすり  
や退却もまさア、造酒屋の男が酒桶へ鉤索をぶッ附けるよりも早いくら

ゐに。…あの半面男のシャドウ。あれを貰ひませう。あいつは敵が持  
剩しまさア。あれを覗つて的中させようてのは、先づペン切り小刀の刃  
を覗ふやうなもんだからね。それから、退却と来てはだ…此婦人向の  
裁縫師のフィープルが敏捷さうだ！ 瘡せた男に限る、大きな男は止した。  
…バードルフ、ウォートに小銃を持たせろ。

バード

(小銃をウォートに渡しつゝ) さ、持つて、進行だ。斯う！ 斯う！ 斯う。(と教  
へる)。

フォル

さ、其小銃を扱ふんだ。…さう。…よろしい。さ。上等、大上等。

(ウォート小銃扱ひをバードルフに教へられるまゝに行ふ)。お、小ちやい、瘦ッぼち  
の、ひねッこびた、皺くちやの、禿ちよろ兵士に限る。…うまいぞ、ウォート、  
うまい。… 汝は感心な野郎だ。さ、取れ、これは褒美の六片だ。

シヤロ

あの男は駄目でござすよ。銃を扱ひ得やしませんよ。むかしあのマイ



ル・エンド・グリーンでね、我輩がクレメント院にゐた頃でしたッけが、例のアーサーの射術會で、我輩が士爵ダゴネット（アーサーの替間）になつた時でござした。……一人、小男で、敏活なのがゐましたッけ、其武器を斯ういふ風に扱つてね、あつちへ行くかと思ふと、こつちへ来る、こつちへ来るかと思ふと、あつちへ行く。「ラ、タ、タ、タ、タ」と言つたり、「バウンス！」と叫つたり、かと思ふと、又あつちへ行く。かと思ふと、又こつちへ来る。……あんなのは二度と見たことア有りませんや。

フォル シャロウさん、此奴らで結構ですよ。さよなら、サイレンスさん。あんたには口数は利きませんよ。……御機嫌よう、兩君。ありがたう。今夜の中に十二哩行かんけりやならんのです。……バードルフ、兵士どもに外套をくれてやれ。

シヤロ 士爵ジョン、御機嫌よう！ 名譽の御成功を！ どうか御無事で！ お歸

りにお寄り下さい。 舊交を温めませうよ。 多分御一しよに參朝するやなことになりませう。

フォル シャロウさん、どうかねえ、さういふやうなことに。

シヤロ さ、さ、もう申し盡しました。 御機嫌よう。

フォル 御機嫌よう、兩君！（判事ら入る）。……さ、バードルフ、先へ奴らを引張つて行け。……（バードルフ新募兵を伴れて入る）。……歸路に、あの判事共を掠奪つてくれう。 シャロウの奴め、底が見え透いてら。 やれく、お互ひに齡を取ると、どうしてあゝ嘘を吐きたがるかなア！ あの瘦ッぼちの判事め、青年時代に亂暴をした話とタアンブル街での手柄話とで持切つてゐやがる。 三つ目にやア、土耳其の納税よりも間違ッこなく、きツと聽手の耳へ嘘ッぱちを拂ひ込みやアがる。 クレメント院にゐた頃にヤ彼奴、あの夕飯の後で、乾酪で製へる人形のやうな瘦ッぼちで、裸になると、まるで妙な風に







第四幕

第一場 ヨオクシャー ゴールツリーの森林。

ヨオクの 大監督、卿モウプレー、卿ヘスチングス及び其他出る。

大監 これは何といふ森ですな？

ヘスチ これはゴールツリーの森と申します。

大監 こゝで暫くお留りなさい、さうして斥候を遣して敵の兵數をお調べなさい。

ヘスチ それはもう既に遣しました。

大監 それは結構。…今回の大事に參與せらるゝ同志の諸君、最近にノオサンバランド伯から入手しました書面の趣意をお知らせ申さんけりやならんが、それは甚だ冷淡な意味内容の書で、すなはち彼れは、其身分相當の一軍隊を引率して、早速参加しようと思んでゐたのではあつたが、それだけの兵員を募ることが出来ないで、其好運の熟する時機まで、蘇國へ退いておようといふのです、さうして、どうか諸君の計畫が、首尾よく勁敵に打克つて、成功を收められるやうに、心から祈願する、と筆を止めてゐるのです。それで、吾々が彼れに掛けてゐた望みは、地に墜ちて粉碎したといふものです。

使者出る。

ヘスチ おい、どういふ知らせだ？



使者

此森の西の方の、やうやく一哩のところまで、敵軍は堂々と進んで参りました。其兵で掩はれてゐまする地積から推しますと、まづ、三萬人をこいらかと存じます。

モウブ

ちやうど其くらゐと豫算してゐた。では、兵を進めて、對陣ませう。

大監

(向うを見て)立派な武装をした將官があそこへ見えたが、だれでせう?

ウエストモーアランドが王軍の使節として出る。

モウブ

ウエストモーアランド卿だと思ひます。

ウエス

總督ランカスターの公爵、王子ジョン、諸君の健康を祝し、御挨拶を申されまします。

大監

ウエストモーアランド卿、御安心あつて、お言葉をお続け下さい。どういふ御用で御入來になりましたか?

ウエス

では、閣下、主として閣下へ使者の口上を申し述べることにいたします。……

叛逆が若し其者らしく、血氣無謀の青年らに導かれ、襤褸を以て飾られ、乞食同然の悪少年共を後援として、賤しい暴民群の形を取つて起つたのでありますならば……さういふ憎み賤むべき暴動として、其本然の、持前の儘の相で現はれたのであるならば、尊敬すべき教への父たる閣下や爰に御列席の諸卿の如き名族方が、斯様に、其醜い、卑劣な、残忍な暴動を是認せんとするかの如くに、御出陣なさるとはなかつたらうと心得ます。……大監  
督閣下、本来閣下の御領分は、國家が平和なればこそ支持せられたのでありまする、又閣下のお髭の其如く銀色を呈するに至つたのも、又學を講じ、文を修められたのも、同じく平和の賜であります。のみならず、閣下は平生、無邪清淨の表章たる白衣をば着用せられて、恰も白鳩の如くに、平和の、幸福な精靈を以て自任なされる次第であります。然るに何が故に閣下は、其有りがたい結構な平和の福音を、荒々しい、騒がしい戦亂の語に



悪評なされるのでありまするか？ 経巻の革表紙を革の脚甲となされ、墨汁を、鐵筆を、神聖な閣下のお舌を、血とも投槍とも、開戦の喇叭ともなさうといふのは如何いふ理由でございますか？

大監

どういふ理由かとお尋ねですか？ 然らば簡短に斯うお答へします。吾は悉く重病に罹つてをるのである、放逸と不攝生との爲に甚しい熱病となつてしまつたのであるから、血を抜くより外に療法はないのです。現に、故王リチャードは此病ひが傳染つて亡くなられた。併しウエストモーアランド伯閣下、手前は決して名醫を以て自任するのでもなければ、平和の敵となつて、武人達の仲間入をしたわけでもありません。いや、むしろ暫時戦亂の怖しさを見せて、幸福に食傷してゐるともがらに養生を勧めて生活の血管を阻害しさうに思はれる悪血を瀉したいと思ふばかりです。更に明白に申せば、手前は、公平に、偏頗なく考量して見ましたのです、吾

吾の干戈が齎す弊と、現に吾々が蒙つてゐる弊害といづれが重いかを。さうして現在の苦痛の方が吾々の罪科以上であることを覺つたのです。吾々は時の潮流の何れに向ふかを見て、極めて平靜な居處を捨て、餘儀なくも、時勢の怒濤中に躍り入るのです。すなはち積弊の一々は箇條書にして、いざといふ時の用に備へてゐます、それは、其以前、既に王へ申し出たことであつたが、毫も聽かうともせられなかつたのです。損害や枉屈を蒙つて、其陳情の爲に王に面謁を求めると、其損害を與へた徒輩自身が遮り拒んで會せない。で、つい昨日今日の、現に地上に生々と流れてゐる鮮血が尙其記憶を書留めてゐるやうな、目前毎刻の種々の危害の着過しがたさに、遂に吾々をして斯ういふ不似合な武装をさせたのです。平和を破らうなぞといふ意志は少しもない、いや、むしろ、名實の一致した眞の平和を成立させたいと思ふばかりにいたすのであります。



ウエス

閣下の御献議を王が拒否されたのは何時の事ですか？ 王がどう冷遇せられましたか？ 内命で閣下を苦めたといふ其貴族は誰ですか？ 此不合法的な殘虐な叛逆に閣下が神聖な奥印とお捺しになつて、忌むべき暴舉を讚美すべきものゝやうになさるには、特に理由がなくてはなりません。同胞全體に對し、國民に對し、又一家の私事としては、實の弟に對する殘虐行為が専ら手前をして救済を思ひ立たしめたのです。さういふ救済の必要はない筈です。假令あるにしても、あなたのなさるべきことではない。

大監

ウエス

モウブ

(口を挟んで) 何故ないのです？ 既に前にも痛手を蒙り、今も現に不正な大壓迫を下さうとしてゐる王に對しては、吾々は悉く反抗の權利を有つてゐます。

ウエス

お、モウブレー卿閣下、ま、とくと時勢の止むを得ない所をお考へなさ

モウブ

い、さすれば閣下とでもおつしやるでせう、これは時代の罪だ、吾々に害を與へたのは王ではなかつたと。併し兎に角閣下は、手前の見る所では、王に對し若しくは現下の事情に對して、不平をおつしやる筈はない。あなた御親父ノオフォーク公爵閣下の御榮譽全部を、王の好意によつて、そつくり其まゝ恢復なされたではありませんか？ 亡父は、今更恢復したり取戻したりしなければならんやうな風に、假にも榮譽を失つたことはありません！ 當時、王であつたりチャードは父を愛してゐたのではあつたが、行掛り上餘儀なく追放に處したのです。あの際、あのヘンリー・ボリングブロックと父とは、共に馬に跨つて、拍車に勇んで嘶き立つ駿馬の鞍坪に居丈高に跨つて、投槍を控へ、眉疵を下し、線隙から眼光を火花と光らせながら、高々と吹鳴らす合圖の喇叭を俟つてゐた。あの時には、あの時には、父がボリングブロックの胸先を只一突にしようとして



しまいと心任せであつた時に……お、其時、王があつたの號令杖を抛げられたが、あれは取りも直さず、己が命を抛捨てられたのであつた。あの時に王は自身をも其他一同の者の命をも……後日冤罪を得たり、謀反したりしてポリングブログの爲に殺された人々の命をも……抛られたのでした。

ウエス

モウブレイ卿、あなたは事情をよく御存じなくつておつしやるのです。其時分、ヒヤフォードの伯爵(ポリングブログ)は英國中で勇敢無双と言はれてゐなすつたのです。だから好運はどちらに歸したか分つたものぢやありません。が、幸ひにして御尊父が勝たれたにしろ、安全にコエントリーの柵外へ出られるのはむづかしかつたでせう。何故ならば、國內擧つて御尊父を悪み呪つてゐたのでしたから。衆望は一へに悉くヒヤフォード伯爵に集つて、彼等は王以上に彼人を愛し、只もう彼人の爲に夢中になつて祝福するといふ風でしたから。併しこれは手前の使命以外の事です。手

前は總督たる王子の命を受けて閣下がたの苦情を承はり、兼ねて、陛下が其事に就いて面謁を甘諾せられる由をお傳へに來たのです。で、閣下がたの御要求が正當である以上、萬事お望み通りになるのです、閣下がたを敵と見做さずともよいやうなことになると思はば。

モウブ

けれども王は、畢竟、止むを得ずしてさういふことを申し出されたのです。すなはち政略です、真情ぢやアない。

ウエス

モウブレイさん、さうおつしやるのは少々御僭越でせう。王の此お申し出しは仁恕からです、恐怖からではありません。といふのは、御覽なさい我軍は咫尺に陣取つてゐます。軍中一人たりとも、かりにも敵を怖れてゐる者などはありません。我軍中には勇士が充満してゐます、あなた方のそれよりもずつと武名の高い、老練な勇士が充満してゐます。甲冑は堅固だし、名分は無論最も正しい。閣下がた同様に勇敢に戦へる道理です。



だから王の此提議を止むを得ずしての事などとおつしやるべきでない。  
いや、手前は、飽迄も、陣頭談判は拒否します。

それは御自分がたの非舉をお認めになつたことになりますぞ。 てんで腐つてゐるから手が附けられないといふ意味になりますぞ。

（口を挟んで）ジョン王子は父王に代つて一切の事を聴取し且つ之を十分決定し得る全権を委任されてをられるのですか？

それは總督といふ名稱中に含まれてゐることです。 そんな詰らんことをお尋ねなさるのは不思議ですな？

では、ウエストモアランド卿、此書面をお持参下さい。 これに吾々の不平の次第が列擧してあります。 此諸箇條が矯正され、今度の擧に與つた者一同、こゝにゐる者、ゐない者の別なく、正しく有効に無罪とせられ、吾々の要望が悉く目的通りに履行された場合には、われらは再び崇嚴な領域

大監

へ立戻つて、平和事業の爲に全力を傾注しようと思ふのです。

ウエス （受取つて）此書面を總督へ見せませう。 では、どうか、兩軍の面前で會見なさるやうに。 で、事が平和に終る歟……これは神の御意次第！……或は議が分れた場合には、劍戟によつてそれを決することになる歟です。  
閣下、さやういたしませう。

ウエストモアランド入る。

モウブ どういふ條件の下でも、到底平和は望まれないやうに、わたしには思はれてならん。

ヘスチ 御心配なさるな。 若し此方の望み通りの十二分の條件の下に和睦が成立つとすれば、随分岩山のやうな堅固な平和も得られませうから。

モウブ さやう、けれども王が吾々を信じてゐない以上、ほんの些細な、詰らん譚証を聞いたゞけでも、王が毎に今度の事を憶出すやうであると、吾々は、假令



殉難者の氣になつて彼れに忠義を盡したところで、やッぱり荒い風に吹廻されてばかりゐなくちやなるまい、宛然悉く粉殻でゝもあるやうに、善悪無差別に。

大監

いや、まさか。ま、お聞きなさい。王は既う然ういふ詰らん事を穴ぐり穿鑿するのには倦み果てゝゐますよ。といふのは、王は、一の疑はしい者を殺すといふと、却つて更に大きな二つの疑はしい者を生存せしめるに至るといふ道理に心附いたからです。だから、彼れは其備忘帳を清淨に拭ひ去つて、何にも記憶に残すまい、書入れをすればするほど倍々損失の記憶を新たにするわけだからと斯う思つてゐるのです。といふのは、到底猜疑心を起さずに居られるほどにそれほど十二分に不逞の徒を拔去つてしまふことの出来ないのを知つてゐるからです。彼れの敵と身方とは根が絡み合つてゐるから、敵を引抜かうとすると、身分の根方がぐらつ

て来る。すなはち英國全國が、癩に障る山妻のやうに、亭主が怒つて撲り附けようとする、赤兒を楯に差上げて、窘めようとし振上げた其手を中途でぶらんこさせてしまふから。

ヘスチ

それに、王は此頃中の懲罰騒ぎで、入用な棒を大抵折ッあまつてますから、新しい罪人が出て来ても、責道具が無いのです、だから、彼れは牙のない獅子同様です、咬まうとする氣はあつても力がありませんよ。

大監

全く其通り。ですから、式部官閣下、若し調停が巧く整へば、和睦はきつと成立します、恰も一たび挫折した四肢が、接合させた爲に、前よりも強健になることがあるやうに。

モウブ

さうあればよいですが。…あ、あそこへウエストモーアランド卿が戻つて来た。

ウエストアランド又出る。



ウエス

王子はもうすぐ参られます。どうぞ閣下には恰ど兩軍の中央といふ場所  
で殿下にお會ひ下さい。

モウブ

では、ヨオクの大監督閣下、お出かけ下さい。

大監

さ、先づ、王子をお迎へ下さい。閣下、お伴します。  
入る。

第二場 森林の他の方面。

陣頭談判を知らせる喇叭の聲。それが濟むと、一方からは  
モウブレーと大監督とヘスチングス及び其他が出る。他の一方  
からはランカンスター公王子ジョンとウエストモアランドとが出る。  
士官其他従ふ。

ジョン

モウブレー君、よくこそ御出張下さつた。…御機嫌よう、大監督閣下。…



あなたにも、ヘスチングス卿…其他  
一同の人々。…ヨオクの閣下、あゝ、  
閣下は、あの小羊の群共が鐘の音につ  
れて集つて来て、閣下の聖書の講義を  
聴かうとして、恭しく前後左右を圍繞  
してゐた時の方が、斯う甲冑に身を固  
めて、軍鼓で暴徒らを鼓舞し、言葉を劍  
に易へ、生を死に易へようとなさる閣  
下よりも、すつと似合はしくお見えで  
した。譬へば、こゝに十分に一國王の  
心を得て、其恩寵の日光に熟し切つて  
ゐる者があるとして、若し其者が其王



の信任を濫用するとしたら、果して如何な大弊を醸すでせうか、其特寵の  
 蔭に隠れて！ 大監督閣下、あなたの場合が正にそれです。あなたは神  
 の教に通曉した人だといふことを聞知してゐない者がありませんか？  
 吾々俗人に取つては、あなたは神聖な議院の議長である、神の御聲其者と  
 も想像されてお在なすつて、神聖な天意を愚昧な人間共に告げ知らす役目  
 をなさるお人だ。お、だれだつて閣下は決して其聖職を濫用なさるや  
 うなことはないと思つてゐませう、天の特寵を濫用なさらうとは思ひ得ま  
 すまい、彼の似而非雙臣が不正な事を其君の名で行ふやうに濫用なさらう  
 とは！ あなたは、如何にも神のお爲らしく言ひ做して、神の御代理たる  
 我父の臣民を煽動して、天の平和をも父の平和をも攪亂する所の斯んな暴  
 舉をお起しなすつた！

大監

ランカスター卿閣下、自分は敢てお父上の平和を攪亂しようといはすので

はありませぬ。いゝや、既にウエストモアランド卿にも申した通り、亂  
 脈な時勢が衆人に共同の不安を感じしめて、こんな怖しい形式で群り集ら  
 せ、自家の安全を求めしめるのです。先般吾々は苦情の詳細を認めて王  
 のお手許へ差出したのでしたが、それは侮辱を以て却下されました。そ  
 こで遂に此兵亂の悪龍が生れたのです。但し此悪龍とても、吾々の公明  
 正大な要求が入れられさへすれば、忽ち其怖しい眼を閉いで眠りませう、  
 而うして其狂氣めいた憤怒が収まりさへすれば、一同おとなしく、従順に、  
 王のお脚下に跪坐くであります。

モウフ  
 が、若し入れられないとなれば、一人となるまでも戦つて、以て運命を決す  
 る覺悟です。

ヘスチ  
 さうして吾々が倒れれば、尙後陣が控へてゐます。若しそれが失敗すれ  
 ば、第三のが繰出すであります。すなはち内亂が陸續接踵して生じて、



英國に人種が續く限りは、此内証は續くでありませう。

ジョン  
ヘスチングス、後世のことまで臆測して、説をお立てなさるのはくだらない、それは餘りくだらないことです。

ウエス  
殿下、どうか先方の條件をどこくまで御是認になりますか、それを有りのままに仰せ聞けられますやうに。

ジョン  
條件は悉く是認します。且つ王族が其名譽に掛けて誓言します、全く父の意志が誤解されたのである、全く父の左右の者がほしいままの解釋を施して號令したのであると。閣下、都合な條々は早速矯正することにします。誓つて、必ず矯正します。どうか兵をそれぐの州へ解散して下さい、我軍とてもさうしますから。で兩軍相會して和親の宴を催しませう、再び相愛する親友となつたといふ現證を目で見えて歸國するやうに。

此時兵士ら酒壺と大盃とを持つて出る。

大監  
王子の御誓約なればお間違へはないこと、信じます。

ジョン  
お約束した以上は必ず遂げます。さうして閣下の爲に祝盃を挙げます。

ヘスチ  
隊長、此和睦の事を軍隊へ知らせて來い。それぐ給料を與へて、退去させろ。嗚皆な悦ぶことだらう。急いで行け。

隊長一人入る。

大監  
(祝盃を挙げつゝ) ウエストモーアランド卿、閣下のために。

ウエス  
(同じく飲みつゝ) 閣下にお酬いします。若しあなたが此和親を成立たせるために、手前が如何なに骨折つたかをお察し下されたなら、十分にお飲み下さるべきです。が、手前の誠意は尙今後更にお分りの時があります。さうあらうと存じます。

ウエス  
そのお言葉ありがたうございます。モウブレイ卿の御健康を祝します。モウブ  
ちやうど好い時機に健康を祝して下さつた。といふのは、只今急に何だ



か心持がわるくなりましたので。

大監 不吉なことが起る前には、人は毎に陽氣になるが、吉事の前には氣が重くなるのが定例です。

ウエス だから、陽氣になさい。突然氣の鬱ぐのは……何か吉い事が明日来るぞ、とさう言つてゐるやうなものですから。

大監 實にわたしは非常に心嬉しく感じます。

モウブ それは至極わるいわけです、あなたの今の規則が確實だとすると。

奥にて関の聲が起る。

ジョン 和睦の事が傳へられたと見える。え、関を作つてゐます！

モウブ 勝利を得て斯うなら愉快だつたらうが！

大監 和睦は先づ勝利と同格ですよ、双方とも立派に服従はしたのですが、どつちにも損害はないのですから。

ジョン さ、どうか、我軍にも解散を命じて下さい。……

ウエストモーランド入る。

それから、閣下、あなた方の部下の兵士らを、どうか此傍を通過させるやうにしていたゞきたい、敵にする筈であつた勇士らの顔を一見したく思ひますから。

大監 では、ヘスチングス卿、解散前に、こゝを通過させて下さい。

ヘスチングス入る。

ジョン 諸卿、今夜は御一しよに泊ることにしませう。……

ウエストモーランド又出る。

ウエス 我軍は何故じつとしてゐるのですう？

將官連が、留つてるといふ御命令を承はつてゐるからと申して、直々の御沙汰をいたゞくまでは、退去いたしません。



ジョン

よく本務を心得てをるなう。

ヘスチングス又出る。

ヘスチ

閣下、我軍は既に退散しました。

鞭を脱された若駒のやうに、東西南北へ

と走つて行きます。

又は小學校の放課時といふ風で、めいゝ家路へと、

遊び場所へと。

ウエス

好いお知らせです、ヘスチングス卿。

(急に態度を改めて) さう聞いた上は、す

ぐさま其方を捕縛するぞ、謀叛人め。

それから大監督、あんたも。モウ

プレー卿、あんたも、大叛逆罪として逮捕しますぞ。

兵士ら群至して三人の武器を取り上げる。

モウ

(憤然として)

さういふことをなすつて、それで公明正大といへますか？

ウエス

足下たちの暴舉が然ういへるか？

大監

(ジョン王子に) かうまで誓約をお破りなさるか？

ジョン

此事に就いて特にどういふ誓約もしない。わたしは足下がたの陳情に應

じて一切の積弊を矯正することを約束した、さうしてそれはわたしの名譽

に掛けて、基督信者らしく、きつと履行するであらう。併し足下がたは謀

叛人である以上、其謀叛相當、其行爲相當の罰を受ける覺悟をするが好い。

事を起したのが既に愚舉であつたのだが、うつかり出陣して、うつかり解

散するとは、いよゝゝ愚な話であつた。…太鼓を鳴らして退散した奴等

を追撃なさい。今日かう安全の利を収めたのは全く神のお力である。：

：だれか此叛賊どもを謀叛人の正當の臥床でもあり終焉所でもある斬首

臺まで警護して行け。

入る。

入る。